

## 第2章

# 困難を抱える子どもたち

---

第2章「困難を抱える子どもたち」では、「三重県子ども条例に基づく調査」の結果をもとに、貧困が子どもの学習や進学、体験機会等に与える影響やヤングケアラーの実態を把握します。また、既存の統計調査の結果から、不登校、いじめ、児童虐待など困難な状況にある子どもたちの状況について把握します。

## 第2章の概要



### ■ 等価世帯収入の水準

本白書における「貧困線」（等価世帯収入の中央値の2分の1）は、小学生で162.5万円、中学生、高校生で153.1万円となっています。

また、本白書における「相対的貧困率」は、小学生、中学生で10.6%、高校生で11.4%となっています。

【本白書における等価世帯収入の水準と相対的貧困率】

	等価世帯収入の中央値(万円)	貧困線(万円)	相対的貧困率(%)
小学生	325.0	162.5	10.6
中学生	306.2	153.1	10.6
高校生	306.2	153.1	11.4
全体	317.5	158.8	10.8

#### <本白書における等価世帯収入による分類>

- 保護者調査における年間収入に関する回答の各選択肢の階級値（階級の真ん中の値）をその世帯の収入の値とする。（例えば、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1,000万円以上」は1,050万円とする。）
- 上記の値を、保護者調査で把握した家族の人数の平方根で除す。
- 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1を「貧困線」とし、「中央値以上」、「貧困線以上、中央値未満」「貧困線未満」の3つの層に分類している。

#### <本白書における「相対的貧困率」の算出>

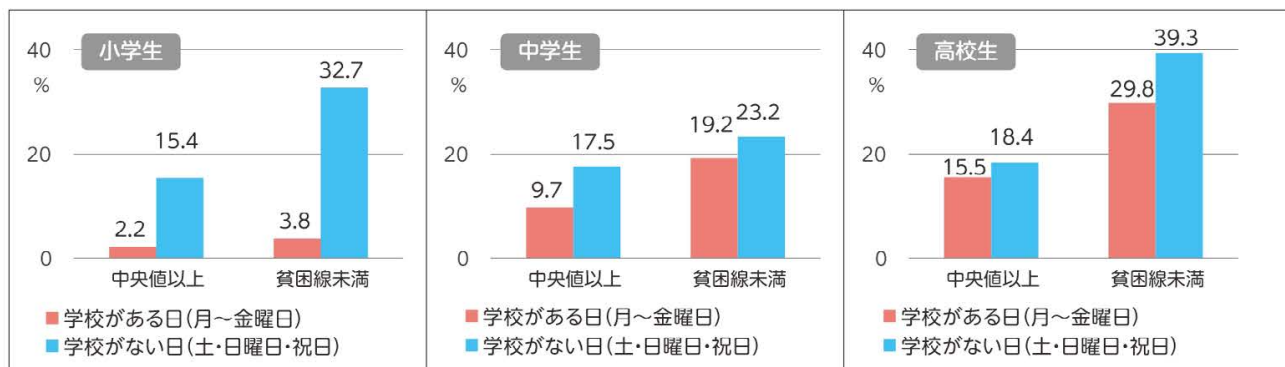
- 上記で算出した貧困線未満の家族の人数を、すべての家族の人数で除して算出

※世帯全体の年間収入及び家族の人数のいずれにも回答があった調査票を対象に算出

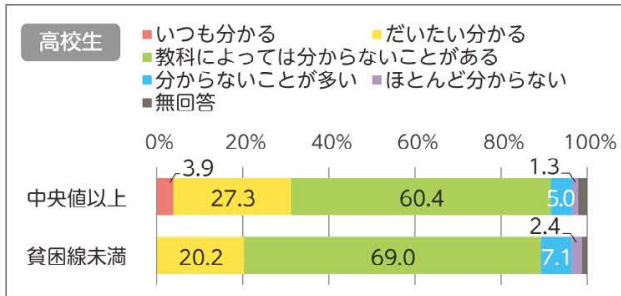
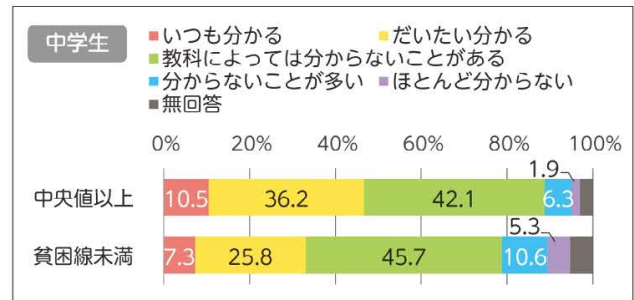
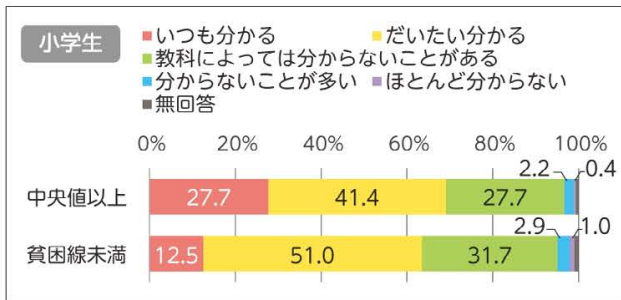
### ■ 等価世帯収入の水準による学習や進学への影響

等価世帯収入の水準別で顕著な差がみられた項目として、学校の授業以外の1日あたりの勉強時間や将来の進学希望があげられます。貧困線未満の世帯の子どもは、中央値以上の世帯と比べて、1日あたりの勉強時間について「まったくしない」の割合が高くなっており、学校の授業が分かる割合は低くなっています。また、将来の進学希望については、貧困線未満の世帯の高校生、保護者ともに「大学またはそれ以上」を希望する割合が低く、子どもの進学に影響が出ています。

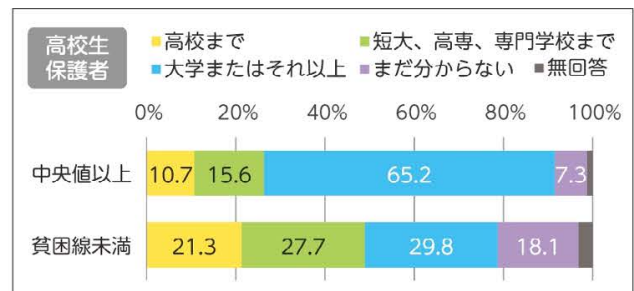
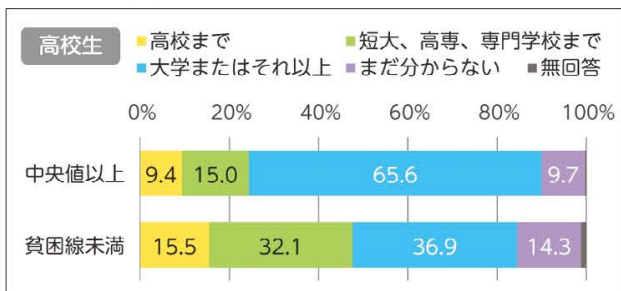
【学校の授業以外の1日あたりの勉強時間について「まったくしない」と答えた割合】



## 【学校の授業の理解度】



## 【将来、どの段階まで進学したいか】

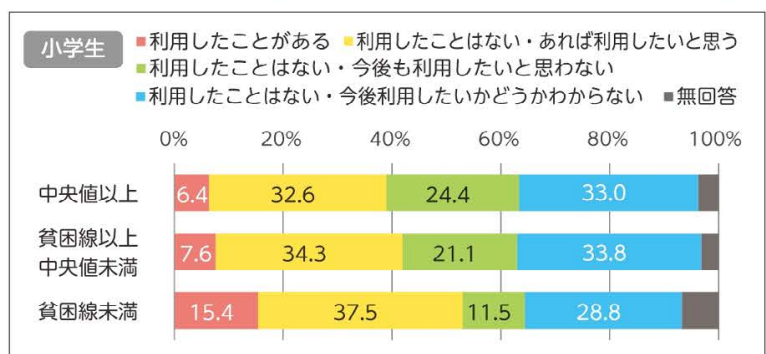


## ■ 子ども食堂などの利用状況

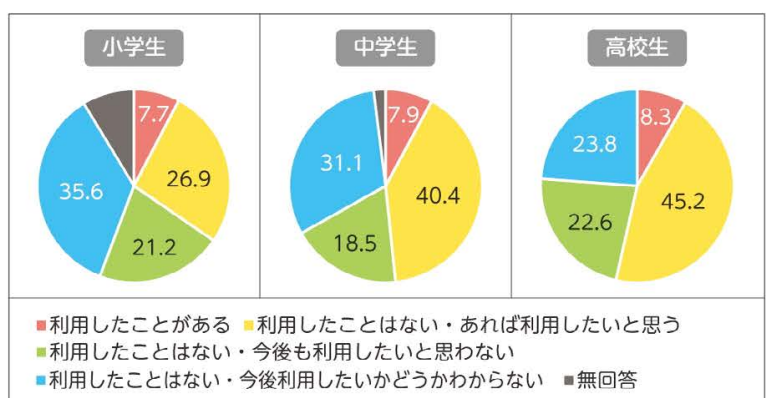
夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）を「利用したことがある」小学生の割合は、貧困線未満の世帯では15.4%となっており、他の世帯より高くなっています。また、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合は、等価世帯収入の水準に関わらず3割以上となっています。

貧困線未満の世帯の子どもについて、勉強を無料でみてくれる場所を「利用したことがある」または「利用したことはない・あれば利用したいと思う」と答えた割合は、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっており、高校生では過半数を占めています。

## 【夕ごはんを無料か安く食べることができる場所の利用状況（小学生）】



## 【勉強を無料でみてくれる場所の利用状況】（貧困線未満の世帯）

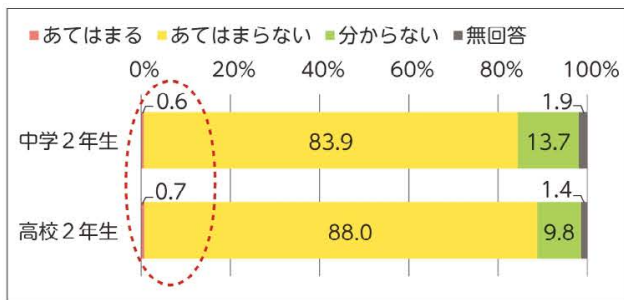


## ■ ヤングケアラーの状況

自身をヤングケアラーにあてはまると思う割合は、中学生、高校生ともに1%未満となっています。



【ヤングケアラーにあてはまると思うか】

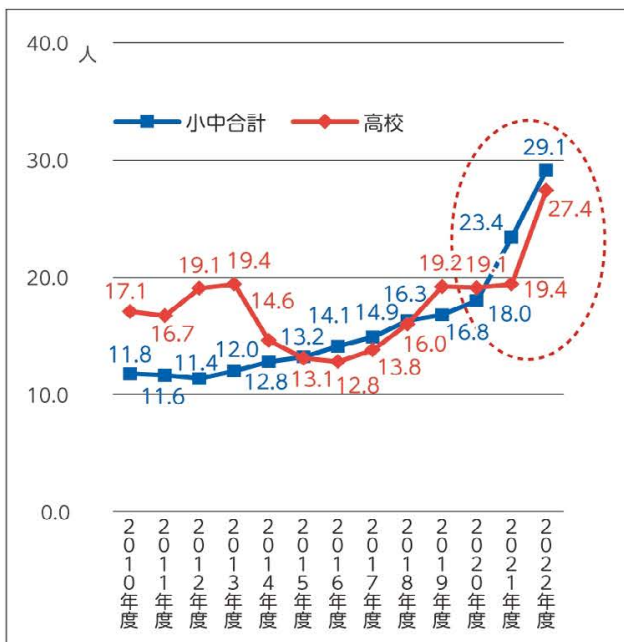


## ■ 不登校

2022年度の児童生徒1,000人あたりの不登校児童生徒数は、小中学校で29.1人であり、10年連続で増加しています。また、高校では27.4人であり、2019年度から2021年度にかけてはほぼ横ばいでしたが、2022年度は大幅に増加しています。

子どもたちが学校に行きたくないと感じるときは、「何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき」が最も高く、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、その割合が高くなっています。

【1,000人あたりの不登校児童生徒数(三重県)】



資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」(2015年度以前は、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(旧調査名))

【学校に行きたくないと感じるとき(上位3つ)】

	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
1位	何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき	25.7	何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき	39.3	何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき	45.0
2位	友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき	10.4	「友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき」以外の理由で友人関係に不安があるとき	16.3	「友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき」以外の理由で友人関係に不安があるとき	16.9
3位	授業が分からないとき	9.6	授業が分からないとき	11.9	授業が分からないとき	12.8
	学校に行きたくないと感じることはない	45.7	学校に行きたくないと感じることはない	34.3	学校に行きたくないと感じることはない	29.4

※<第2章の概要>に掲載の図表は、特に記載がない限り「三重県子ども条例に基づく調査<子ども調査>」「三重県子ども条例に基づく調査<保護者調査>」より作成



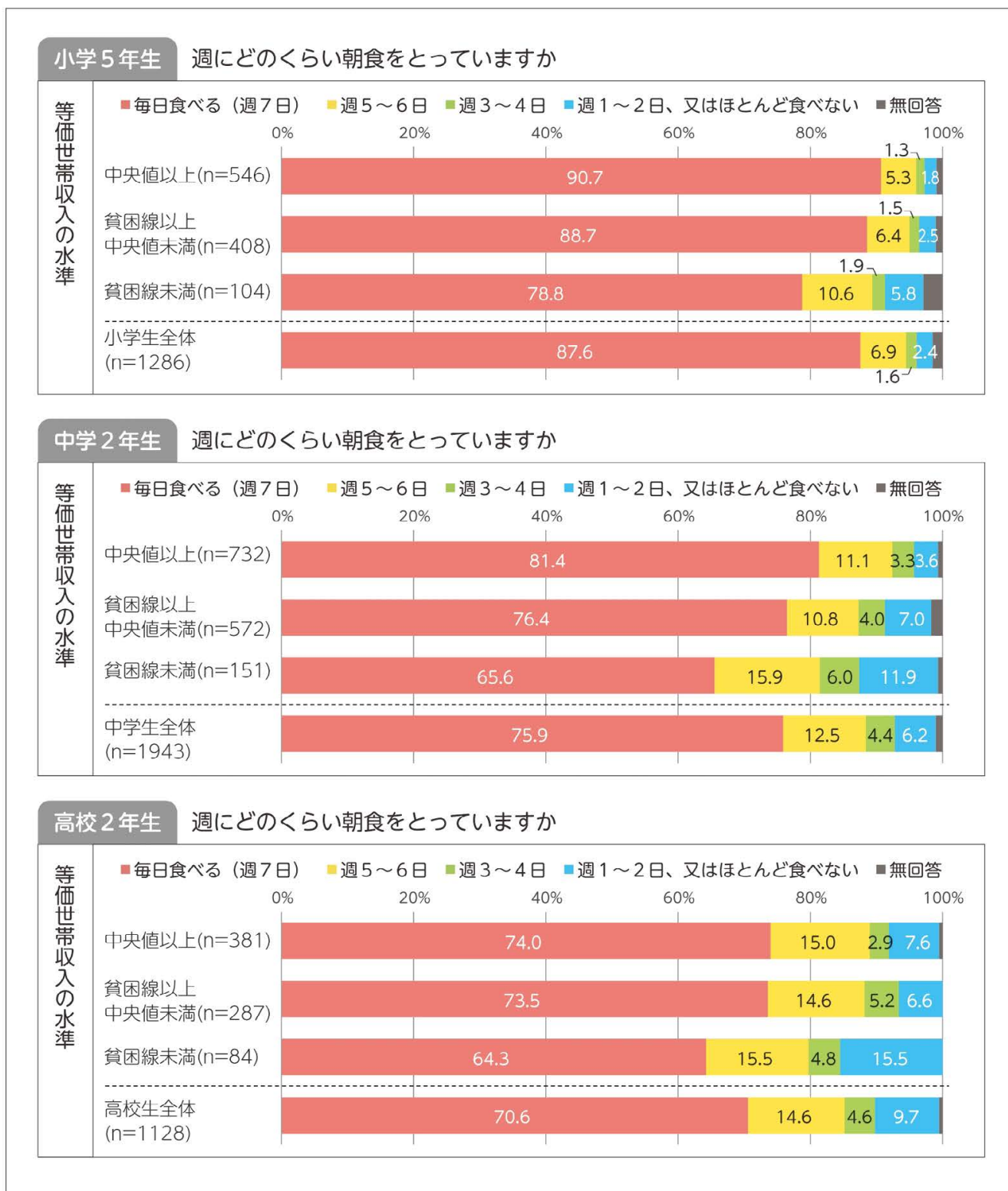
# 1

## 貧困が子どもたちの生活に与える影響

### 貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、朝食を毎日食べる割合が低い

「等価世帯収入の水準」と「朝食をとる頻度」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、朝食を「毎日食べる」の割合が低くなっています。特に中学生は、「毎日食べる」の割合が65.6%となり、他の世帯より10ポイント以上低くなっています。また、中学生、高校生は「週1～2日、又はほとんど食べない」の割合が1割を超えています。

■ 図表48 「等価世帯収入の水準」と「朝食をとる頻度」の関係

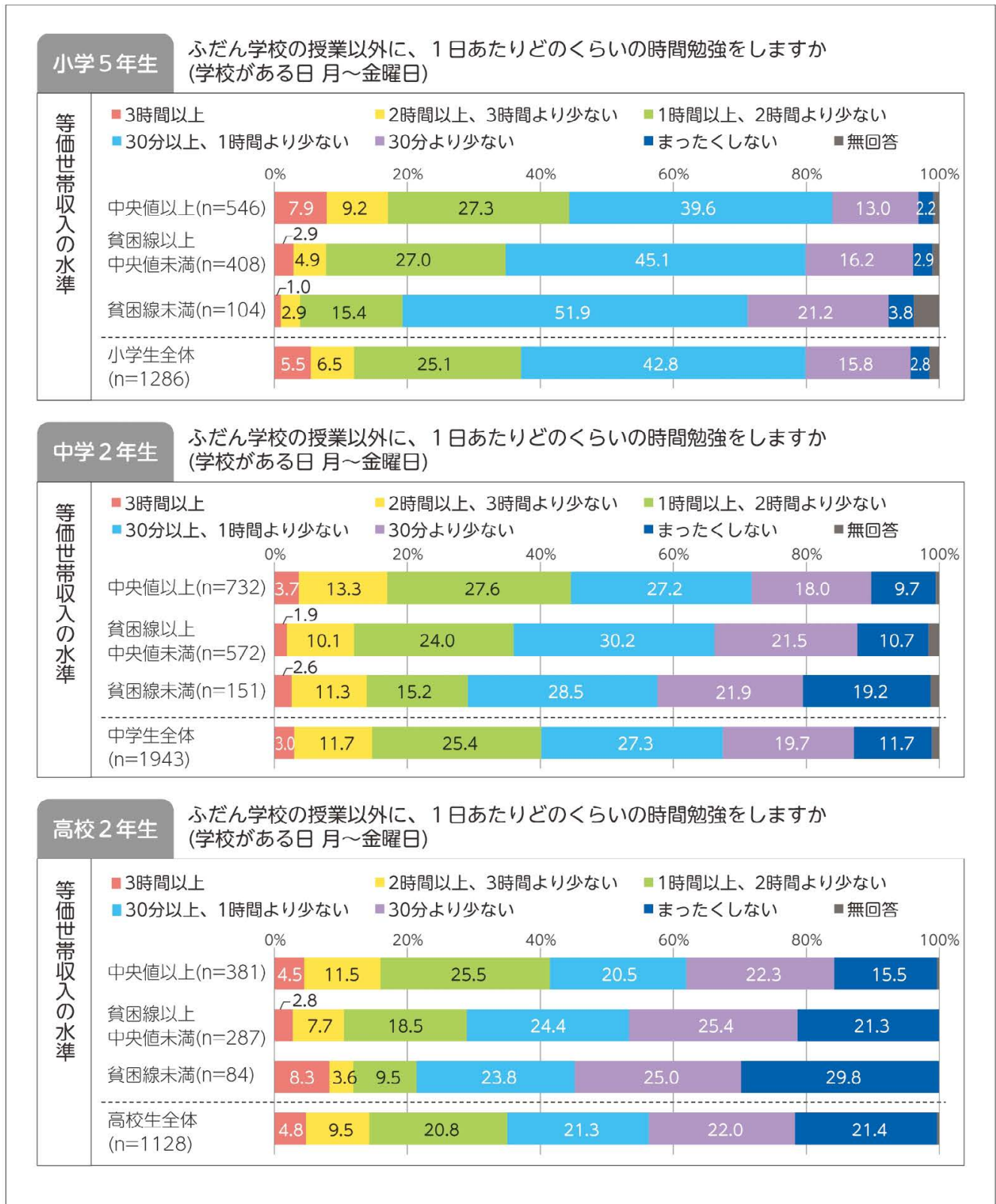


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

## 貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、平日の1日あたりの勉強時間が少ない割合が高い

「等価世帯収入の水準」と「ふだん学校の授業以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日 月～金曜日）」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、1日あたりの勉強時間が1時間より少ない割合が高くなっています。また、貧困線未満の世帯の高校生は、「まったくしない」の割合が29.8%で他の世帯より高くなっています。

■ 図表49-1 「等価世帯収入の水準」と「ふだん学校の授業以外の1日あたりの勉強時間(学校がある日 月～金曜日)」の関係

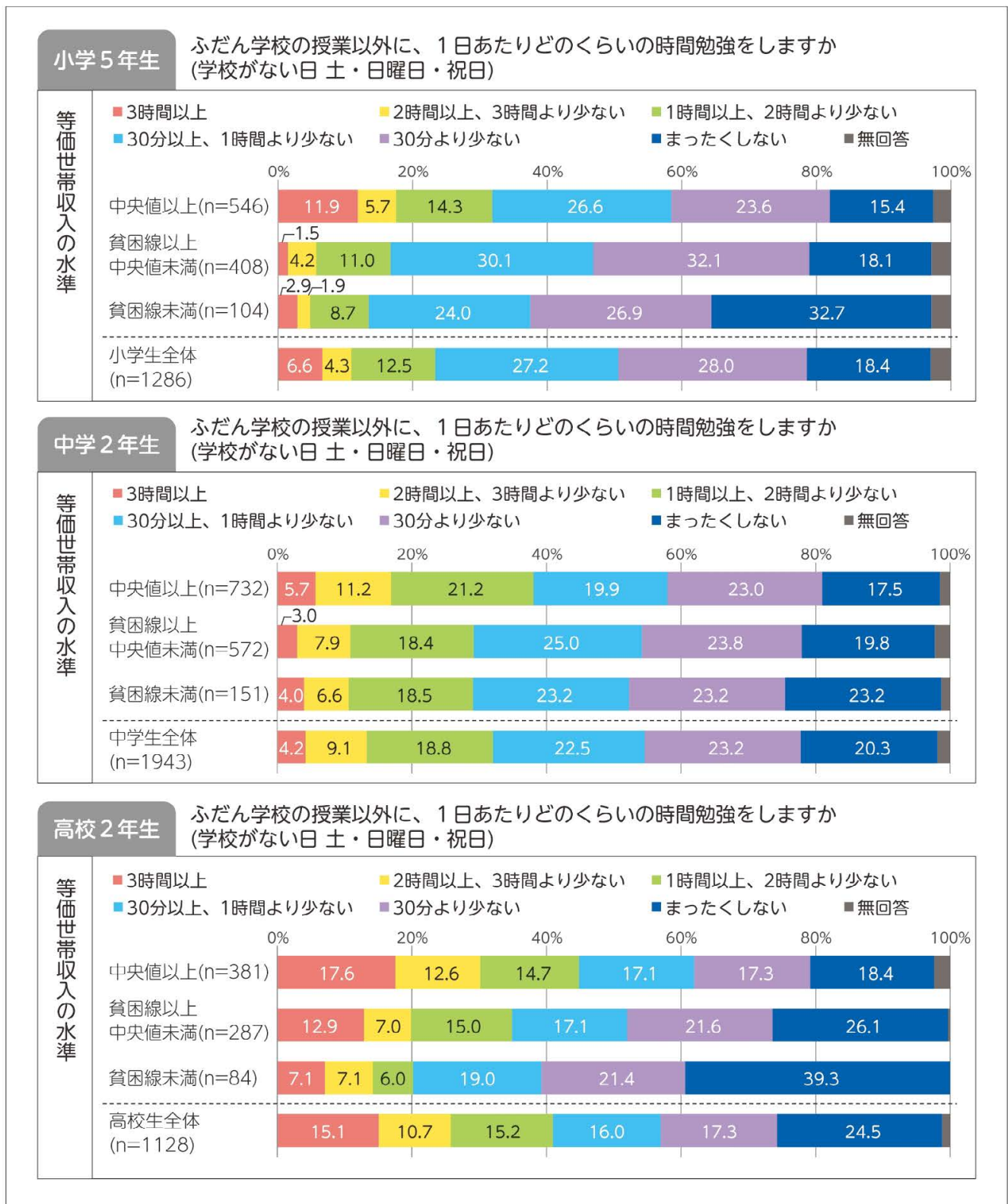


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

## 貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、休日の1日あたりの勉強時間が少ない割合が高い

「等価世帯収入の水準」と「ふだん学校の授業以外の1日あたりの勉強時間(学校がない日 土・日曜日・祝日)」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、1日あたりの勉強時間が1時間より少ない割合が高くなっています。また、貧困線未満の世帯の小学生、高校生は、「まったくしない」の割合がそれぞれ32.7%、39.3%となっており、他の世帯より10ポイント以上高くなっています。

■ 図表49-2 「等価世帯収入の水準」と「ふだん学校の授業以外の1日あたりの勉強時間(学校がない日 土・日曜日・祝日)」の関係

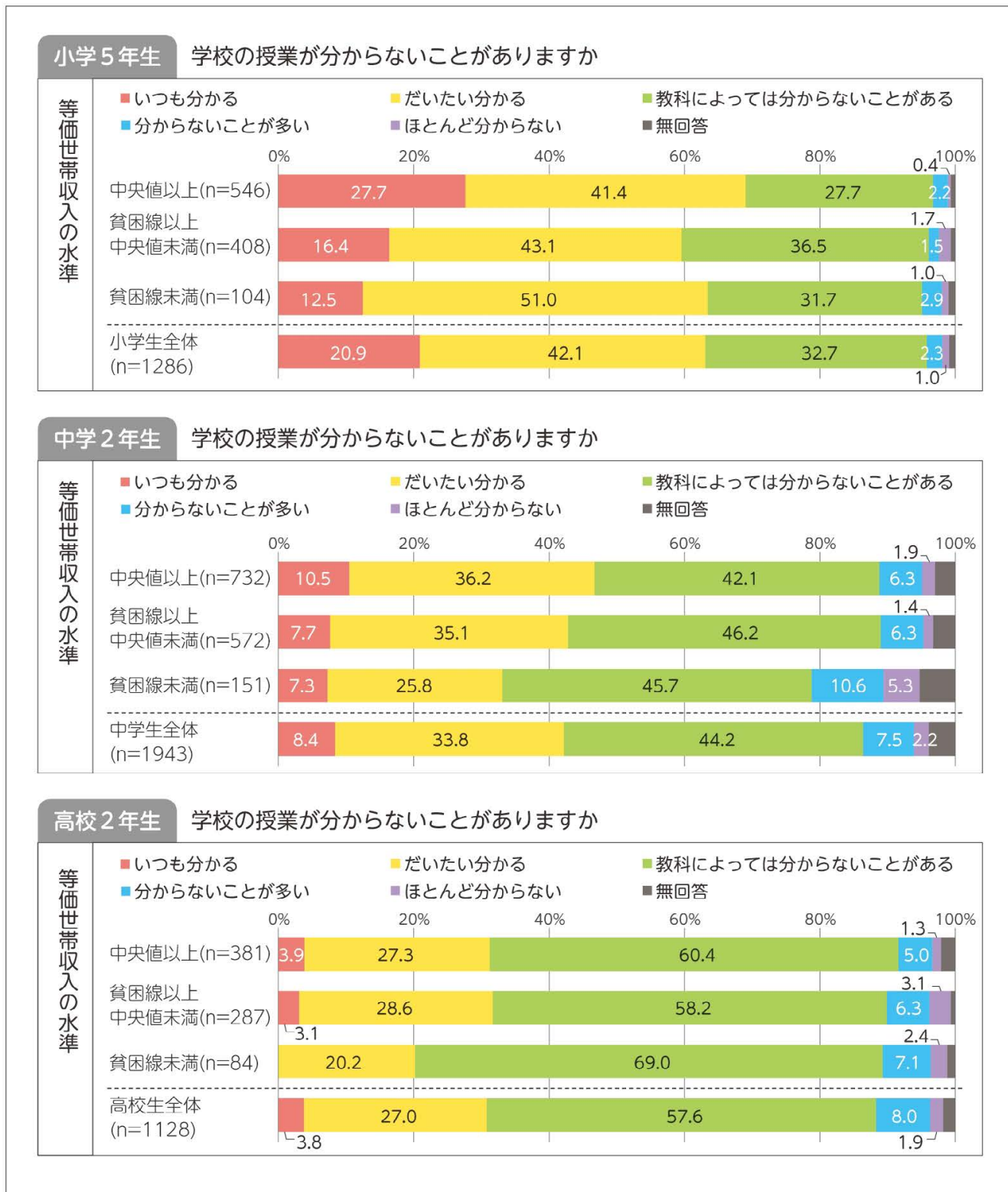


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

## 貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、学校の授業がいつも分かる割合が低い

「等価世帯収入の水準」と「学校の授業が分からないこと」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、「いつも分かる」の割合が低くなっています。特に、貧困線未満の世帯の小学生は、「いつも分かる」の割合が12.5%となり、中央値以上の世帯より15.2ポイント低くなっています。また、貧困線未満の世帯の中学生、高校生は「いつも分かる」または「だいたい分かる」と答えた割合が、それぞれ33.1%、20.2%となり、他の世帯より低くなっています。

■ 図表50 「等価世帯収入の水準」と「学校の授業が分からないこと」の関係



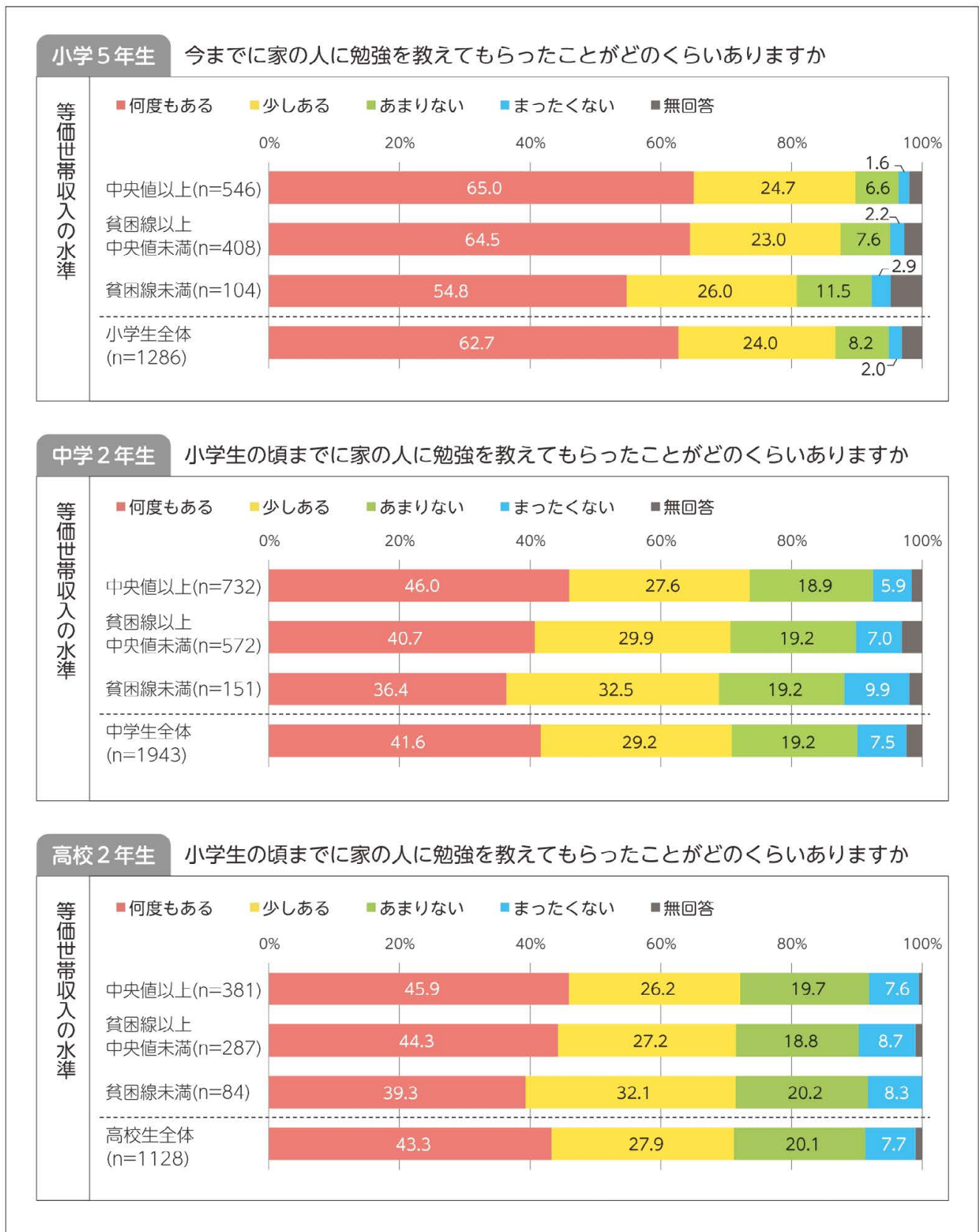
資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」



## 貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、家の人に勉強を教えてもらったことが少ない割合が高い

「等価世帯収入の水準」と「小学生の頃までに家の人に勉強を教えてもらったこと」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、家の人に勉強を教えてもらったことが「何度もある」の割合が低くなっています。

■ 図表51 「等価世帯収入の水準」と「小学生の頃までに家の人に勉強を教えてもらったこと」の関係

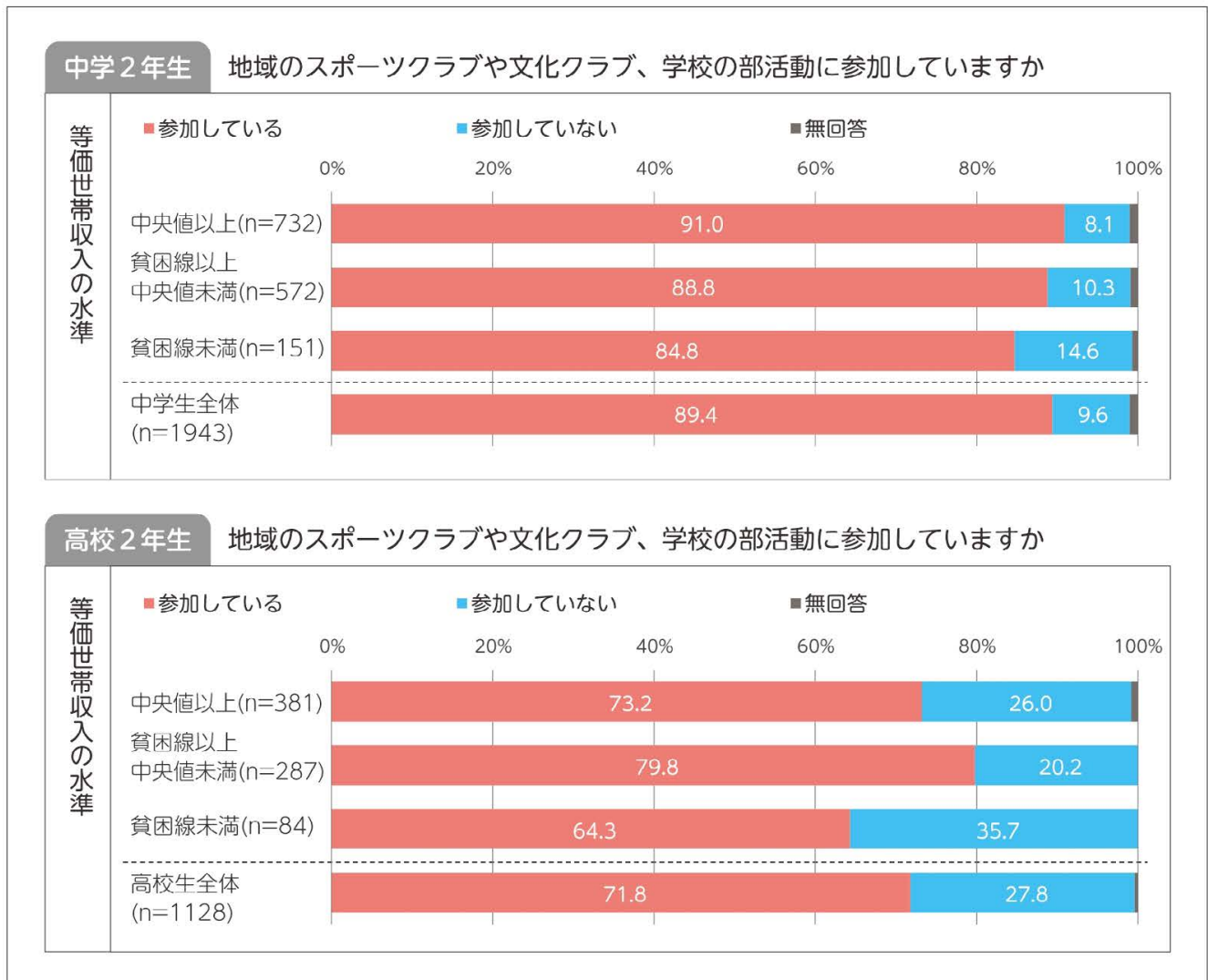


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

## 貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、地域のクラブや学校の部活動に参加している割合が低い

「等価世帯収入の水準」と「地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動への参加」の関係について、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に「参加している」の割合が低くなっています。

■ 図表52 「等価世帯収入の水準」と「地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動への参加」の関係



資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

子どもを支援する取組を行っているNPOの方にお聞きしました。

### ● 体験機会について

子ども食堂に来る子どもたちの中には、コミュニケーションをとることが苦手な子どもが少なくないため、体験活動を通じて人との交流機会を増やすことを目的に、月に1回以上の体験イベントを開催しています。体験イベントは、子どもたちが失敗してもよい場だと考えています。失敗しても再チャレンジし、失敗から学ぶことで自信を持ってほしいと考えています。

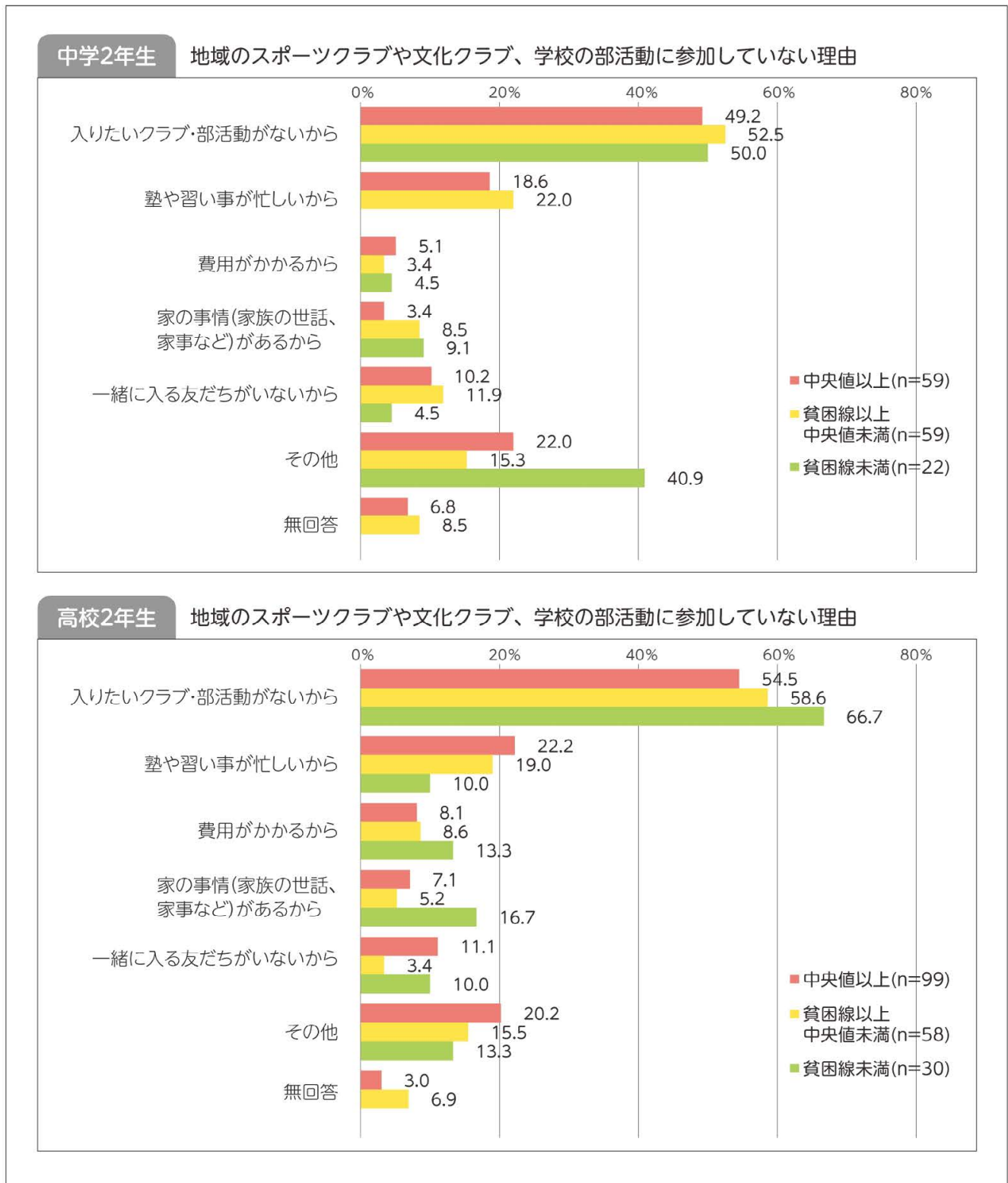
また、親子キャンプなどは、キャンプ道具の費用などがかかるため、家庭の経済事情による体験格差が生まれてしまいます。特にひとり親家庭の場合、周囲に迷惑をかけてはいけないとの意識が強く、子どもがしたいことに制限をかけていることが多いように感じます。どのような境遇の子どもであっても、学びや遊びの機会は平等であってほしいと思います。

(NPO 法人 shining)

## 貧困線未満の世帯の高校生は、他の世帯より、家の事情や費用の問題で地域のスポーツクラブ等に参加していない割合が高い

「等価世帯収入の水準」と「地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していない理由」の関係について、貧困線未満の世帯の高校生は「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」の割合が16.7%、「費用がかかるから」の割合が13.3%となり、他の世帯より高くなっています。一方、貧困線未満の世帯の高校生は、「塾や習い事が忙しいから」の割合が10.0%となり、他の世帯より低くなっています。

■ 図表53 「等価世帯収入の水準」と「地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していない理由」の関係(複数回答)

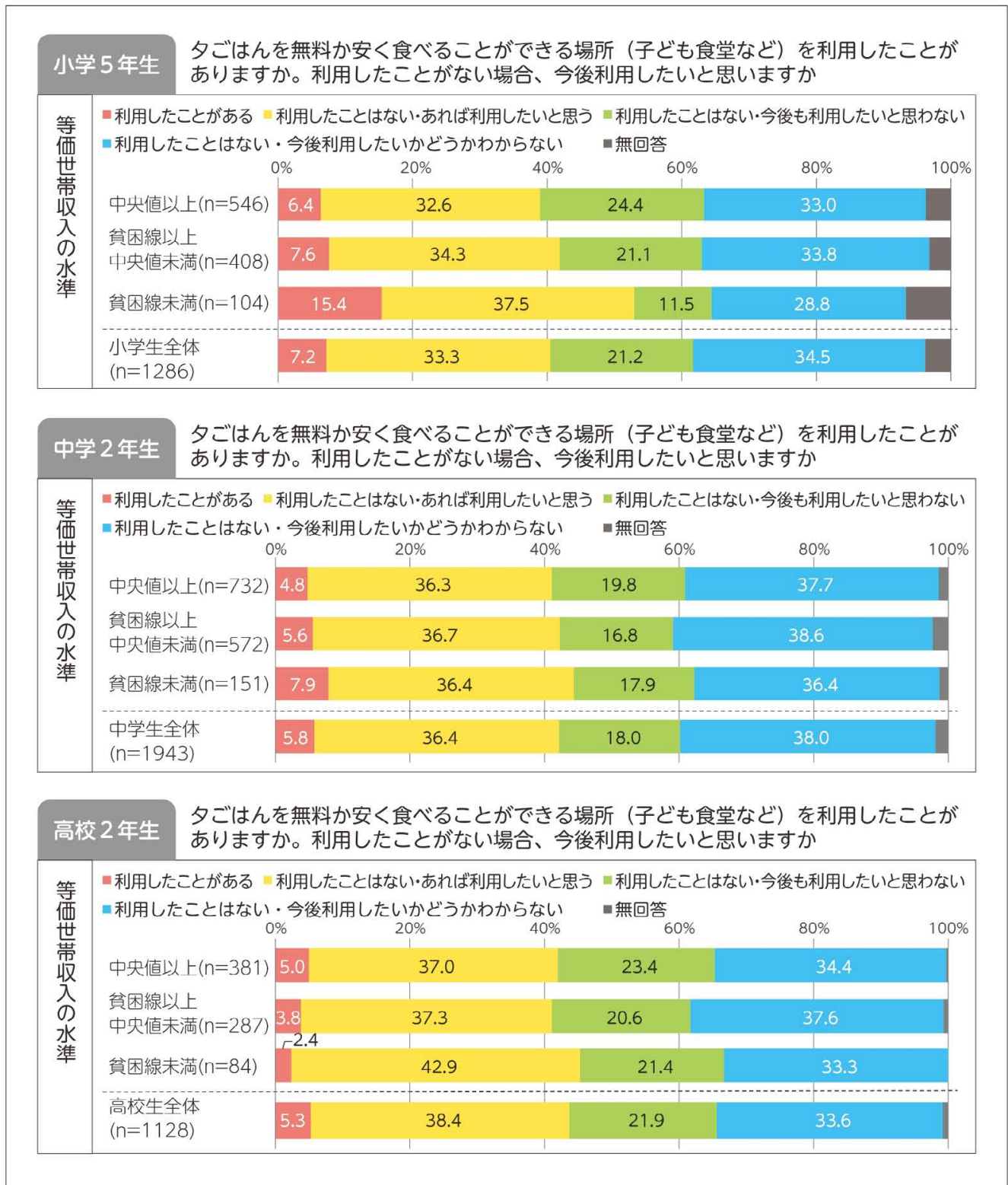


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

**貧困線未満の世帯の小学生、中学生は、他の世帯より、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）を利用したことがある割合が高い**

「等価世帯収入の水準」と「夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）の利用」の関係について、小学生、中学生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）を「利用したことがある」の割合が高くなっており、小学生で15.4%、中学生で7.9%となっています。また、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」と答えた割合は、等価世帯収入の水準に関わらず3割以上となっています。

**■図表54-1 「等価世帯収入の水準」と「夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）の利用」の関係**

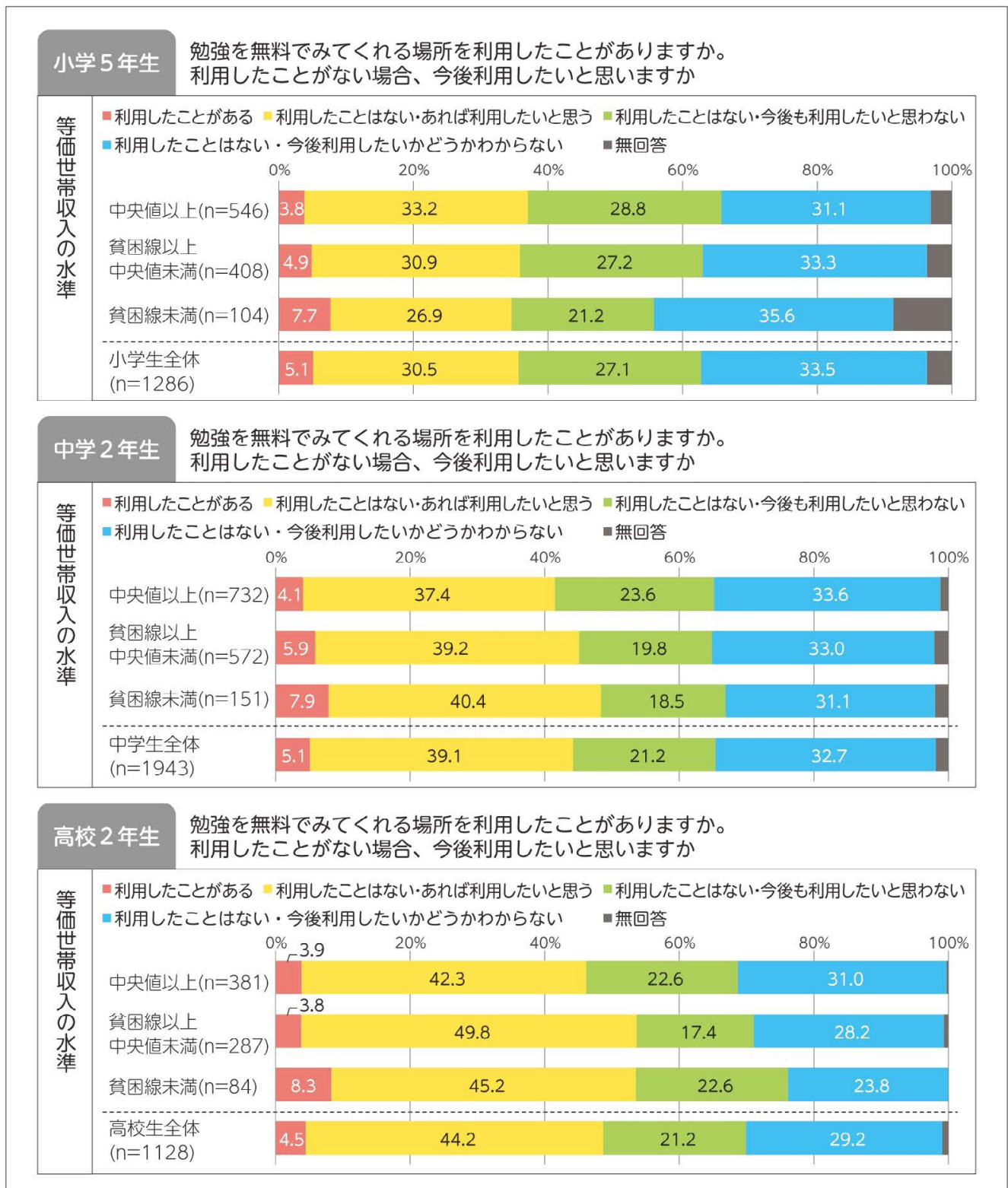


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

## 貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、勉強を無料でみてくれる場所を利用したことがある割合が高い

「等価世帯収入の水準」と「勉強を無料でみてくれる場所の利用」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、勉強を無料でみてくれる場所を「利用したことがある」の割合が高くなっています。また、「利用したことがある」または「利用したことはない・あれば利用したいと思う」と答えた割合は、等価世帯収入の水準に関わらず、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっており、貧困線以上中央値未満及び貧困線未満の世帯の高校生では過半数を占めています。

■ 図表54-2 「等価世帯収入の水準」と「勉強を無料でみてくれる場所の利用」の関係



資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

## 子ども食堂や勉強を無料でみてくれる場所等の利用による変化は「友だちが増えた」が2割以上

夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）、勉強を無料でみてくれる場所、家や学校以外でなんでも相談できる場所（電話やネットの相談を含む）を利用したことによる変化について、小学生、中学生、高校生ともに、「特に変化はない」の割合が最も高くなっています。次いで、小学生は、「ほっとできる時間が増えた」（28.1%）、「生活の中で楽しみなことが増えた」（25.6%）となっています。一方、中学生、高校生は、次いで「友だちが増えた」（それぞれ22.4%、22.3%）、「勉強する時間が増えた」（それぞれ20.6%、17.9%）の順となっています。小学生は「ほっとできる時間が増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」の割合が、中学生、高校生より、それぞれ10ポイント以上高くなっています。

■ 図表55 夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）、勉強を無料でみてくれる場所、家や学校以外でなんでも相談できる場所（電話やネットの相談を含む）を利用することで、どのような変化がありましたか（複数回答）

	小学5年生	中学2年生	高校2年生
	R5年度	R5年度	R5年度
友だちが増えた	24.4	② 22.4	② 22.3
気軽に話せる大人が増えた	18.8	17.0	11.6
生活の中で楽しみなことが増えた	③ 25.6	13.0	11.6
ほっとできる時間が増えた	② 28.1	17.0	13.4
栄養のある食事をとれることが増えた	9.4	5.4	2.7
勉強が分かるようになった	18.8	16.6	13.4
勉強する時間が増えた	11.9	③ 20.6	③ 17.9
その他	8.1	2.2	3.6
特に変化はない	① 30.0	① 36.3	① 33.9
無回答	4.4	6.7	5.4

資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」  
 ※○で囲んだ数字は、上位3項目の順位を表しています。

子どもを支援する取組を行っているNPOの方にお聞きしました。

### ● 子ども食堂について

調査結果（※ P72）では、小中高と上がるにつれて、子ども食堂の利用率が低くなっていますが、中学生、高校生になって初めて子ども食堂に足を運ぶのはハードルが高いと思います。子ども食堂は小さい子ども向けのイメージが強く、どんな場所なのかを知らないとなかなか行きづらい。一方、小学生から通っていた子どもが高校生になって友だちを連れてくるケースがあり、高校生の利用が増えている子ども食堂もあります。

子ども食堂に通い続ける子どもの中には、課題を抱えた家庭の子どもも多くいますが、課題のあるなしにかかわらず地域の誰もが集える場所であることが大切です。経済的な面だけでなく誰にでもあるさまざまな困りごとを、地域のつながりの中で自然と助け合える環境を作りたいと考えています。助けられるだけでなく助ける側になることで、子どもの自己肯定感も高まります。

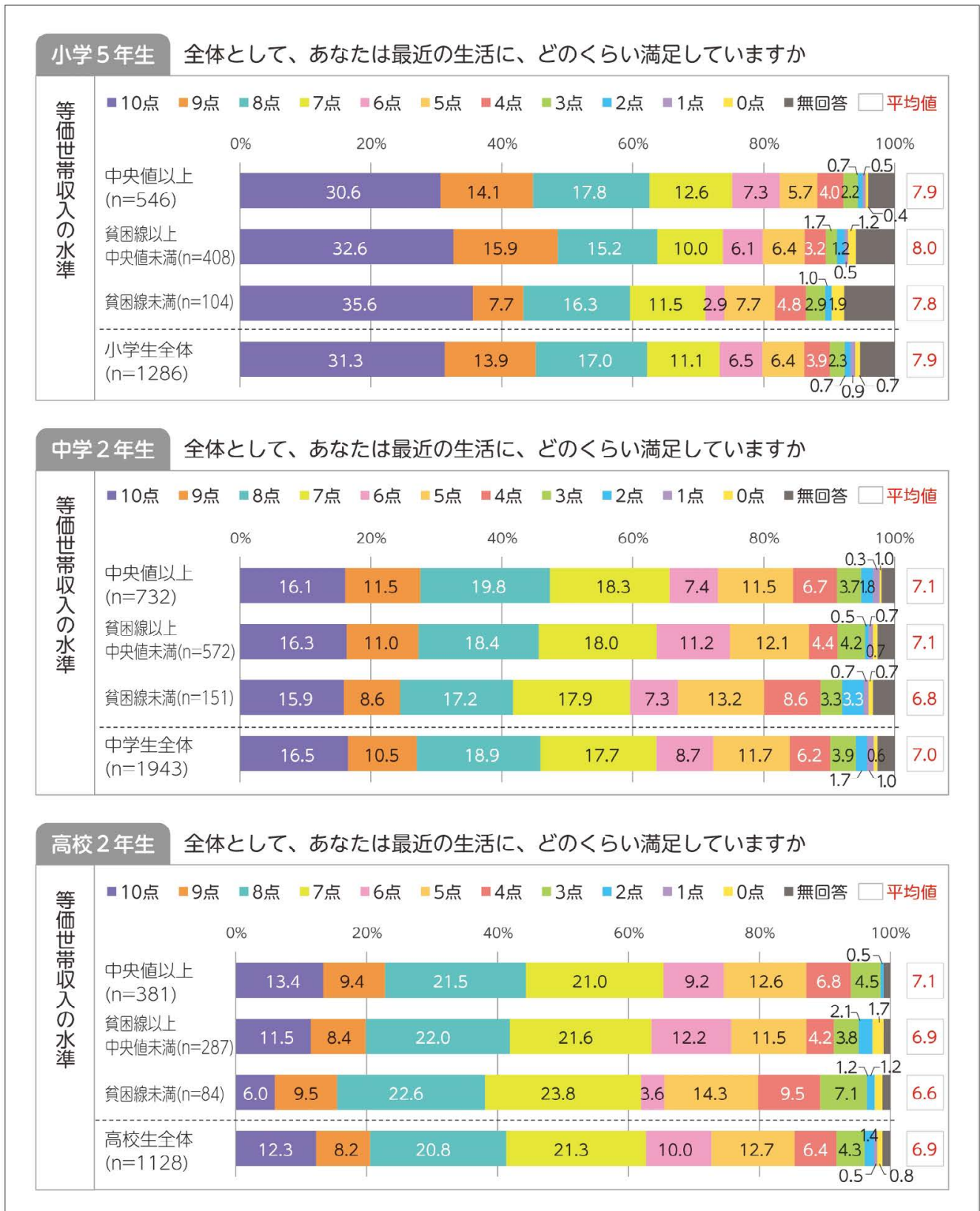
（NPO 法人 太陽の家）

## 貧困線未満の世帯の子どもの最近の生活満足度の平均値は、他の世帯よりやや低い

「等価世帯収入の水準」と「最近の生活の満足度」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもの満足度は、他の世帯より、最近の生活満足度の平均値がやや低くなっています。

また、10点の割合は小学生では中央値以上の世帯を上回っていますが、中学生ではやや下回り、高校生では2分の1以下になっています。

■ 図表56 「等価世帯収入の水準」と「最近の生活の満足度」の関係

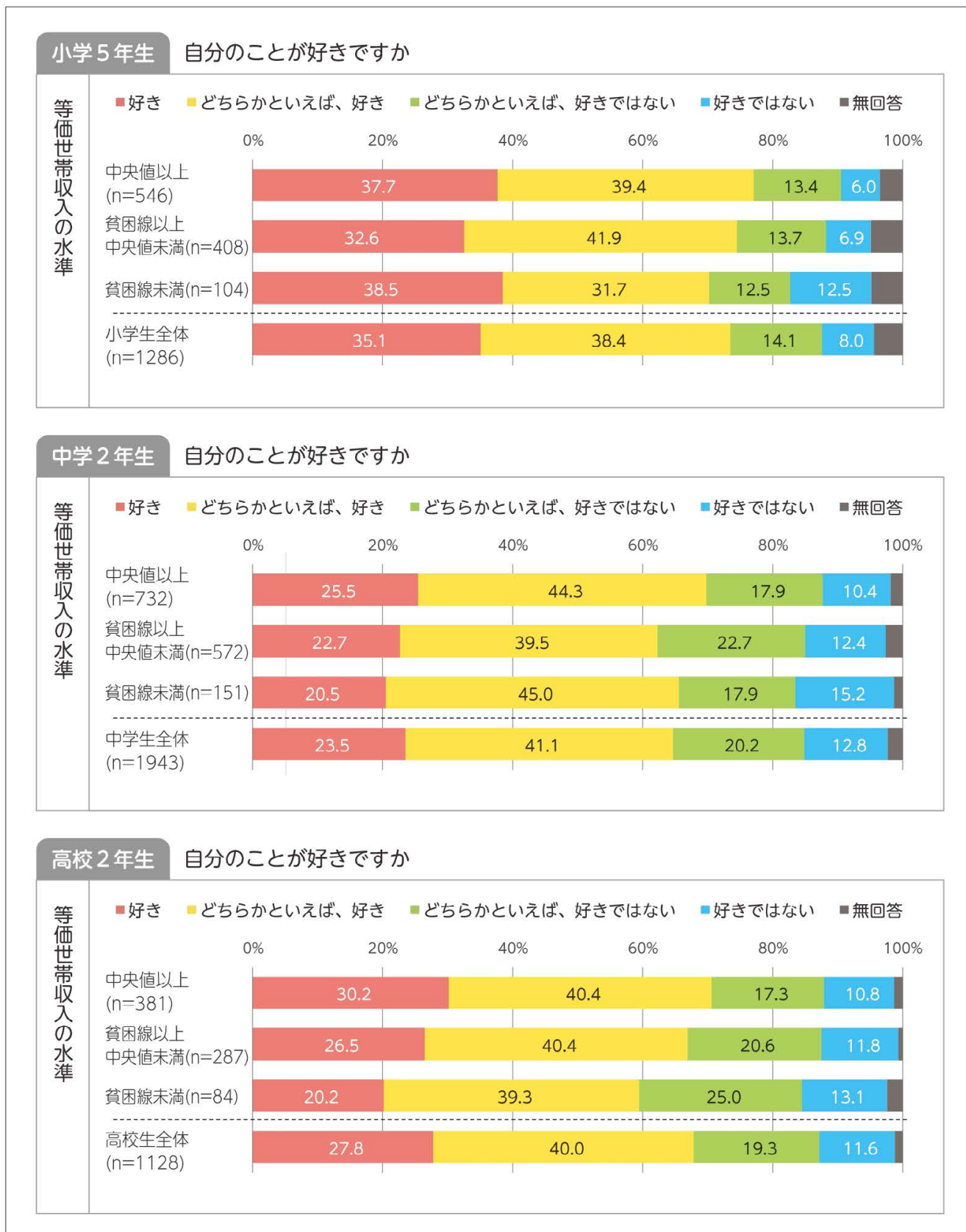


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」  
 ※ □ で囲んだ数字は、最近の生活満足度の平均値を表しています。

## 貧困線未満の世帯の小学生、高校生は、他の世帯より、自分のことが好きな割合が低い

「等価世帯収入の水準」と「自分のことが好き」の関係について、自分のことが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合は、貧困線未満の世帯では、小学生は70.2%、中学生は65.5%、高校生は59.5%となっており、小学生、高校生は他の世帯より低くなっています。

■ 図表57 「等価世帯収入の水準」と「自分のことが好き」の関係



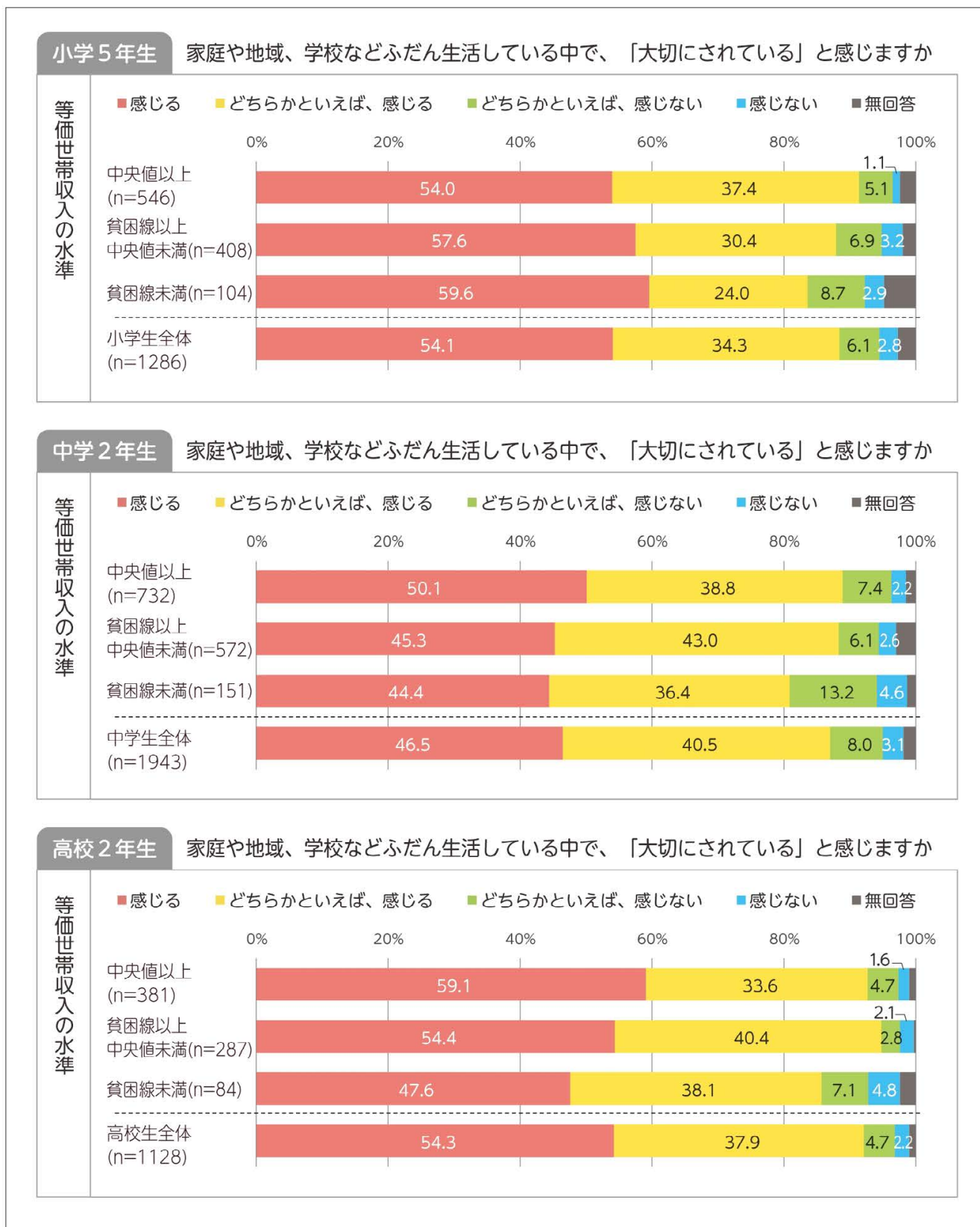
資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」



## 貧困線未満の世帯の子どもは、他の世帯より、大切にされていると感じる割合が低い

「等価世帯収入の水準」と「ふだん生活している中で、『大切にされている』と感じる」の関係について、大切にされていると「感じる」または「どちらかといえば、感じる」と肯定的に答えた割合は、貧困線未満の世帯では、小学生は83.6%、中学生は80.8%、高校生は85.7%となっており、いずれも他の世帯より低くなっています。特に、高校生は「感じる」の割合が47.6%で、中央値以上の世帯より11.5ポイント低くなっています。

■図表58 「等価世帯収入の水準」と「ふだん生活している中で、『大切にされている』と感じる」の関係

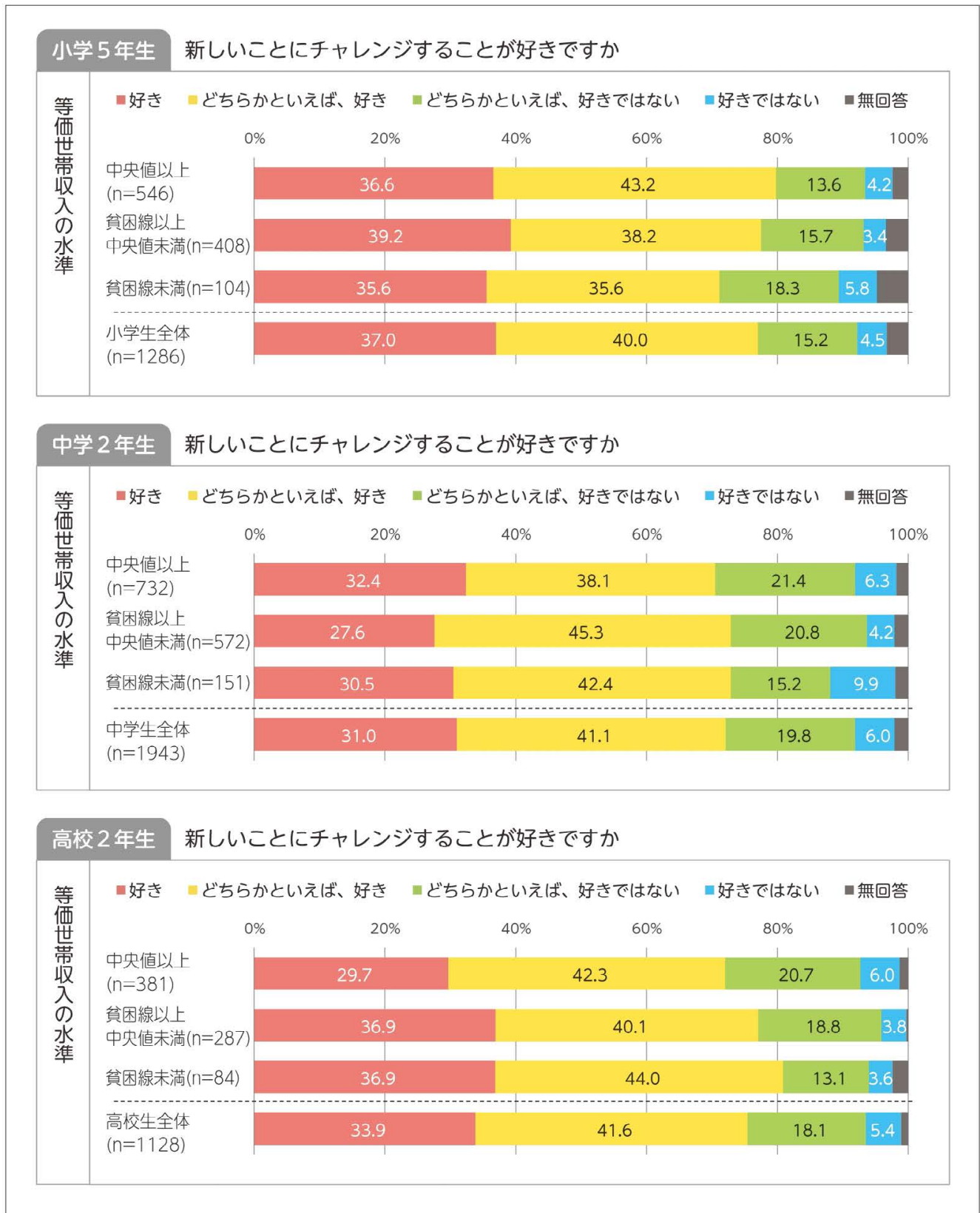


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査・子ども調査）」

**貧困線未満の世帯の小学生は、他の世帯より、新しいことにチャレンジすることが好きな割合が低い、高校生は高い**

「等価世帯収入の水準」と「新しいことにチャレンジすることが好き」の関係について、新しいことにチャレンジすることが「好き」または「どちらかといえば、好き」と肯定的に答えた割合は、貧困線未満の世帯では、小学生は71.2%、中学生は72.9%、高校生は80.9%となっており、小学生は他の世帯より低く、高校生は他の世帯より高くなっています。

**■図表59 「等価世帯収入の水準」と「新しいことにチャレンジすることが好き」の関係**

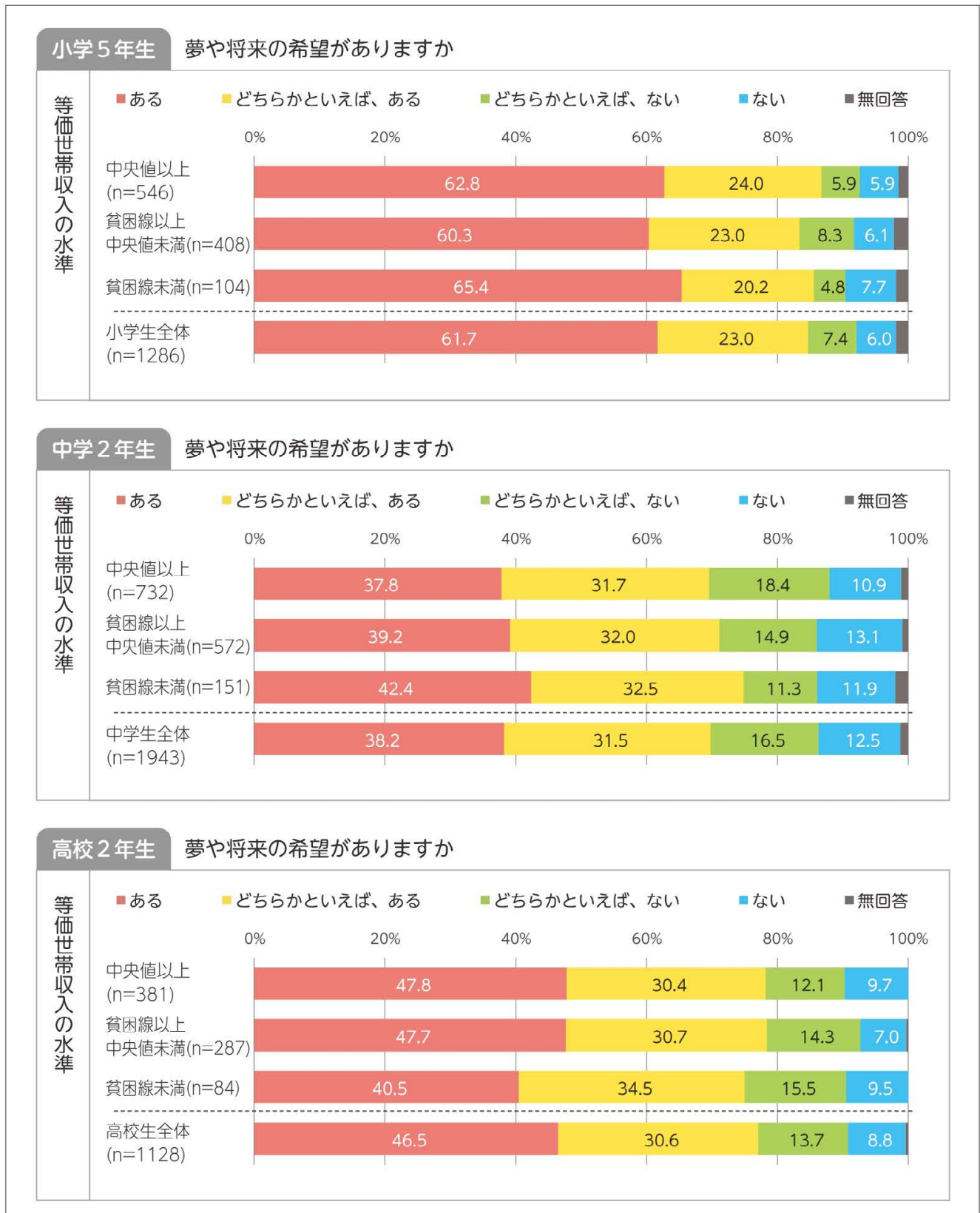


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査・子ども調査〉」

## 貧困線未満の世帯の中学生は、他の世帯より、夢や将来の希望がある割合が高いが、高校生は低い

「等価世帯収入の水準」と「夢や将来の希望がある」の関係について、夢や将来の希望が「ある」または「どちらかといえば、ある」と肯定的に答えた割合は、貧困線未満の世帯では、小学生は85.6%、中学生は74.9%、高校生は75.0%となっており、中学生は他の世帯より高く、高校生は他の世帯より低くなっています。

■図表60 「等価世帯収入の水準」と「夢や将来の希望がある」の関係



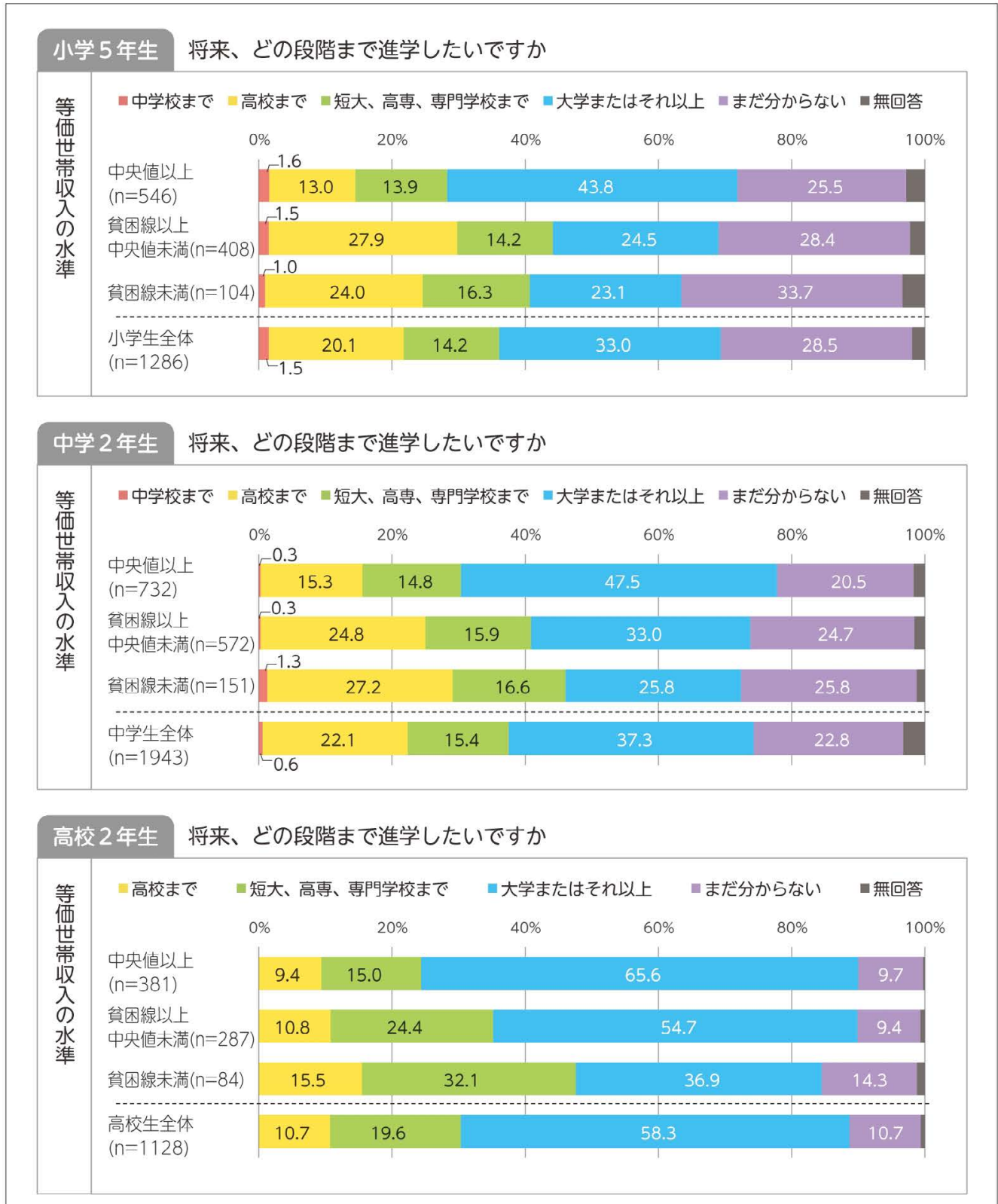
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査・子ども調査〉」

## 貧困線未満の世帯の子どもは、「大学またはそれ以上」への進学希望が、中央値以上の世帯より20ポイント以上低い

「等価世帯収入の水準」と「将来の進学段階」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の子どもは、中央値以上の世帯の子どもより、将来の進学段階について「大学またはそれ以上」の割合が20ポイント以上低くなっています。

貧困線未満の世帯の高校生は、将来の進学段階について「短大、高専、専門学校まで」の割合が32.1%となり、「大学またはそれ以上」(36.9%)と同程度の割合となっています。

■ 図表61 「等価世帯収入の水準」と「将来の進学段階」(子ども)の関係

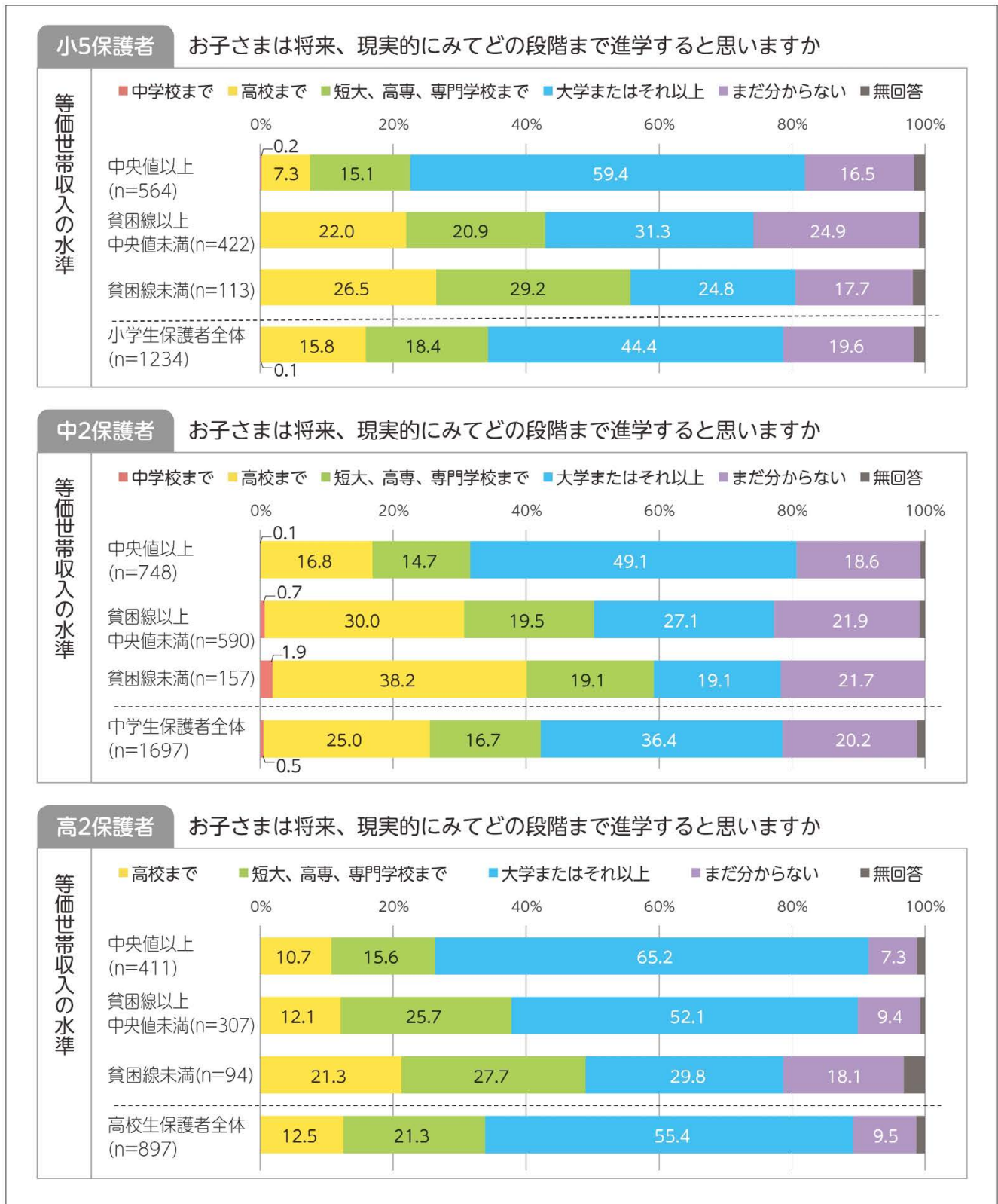


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査・子ども調査〉」

## 貧困線未満の世帯の保護者は、子どもの進学段階について「大学またはそれ以上」とする割合が、中央値以上の世帯より30ポイント以上低い

「等価世帯収入の水準」と「将来の進学段階」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、貧困線未満の世帯の保護者は、中央値以上の世帯の保護者より、将来の進学段階について「大学またはそれ以上」とする割合が30ポイント以上低くなっています。貧困線未満の世帯の高校生の保護者は、将来の進学段階について「大学またはそれ以上」の割合が29.8%となっており、子ども本人の希望36.9% (P80) より7.1ポイント低くなっています。

■ 図表62 「等価世帯収入の水準」と「将来の進学段階」(保護者)の関係

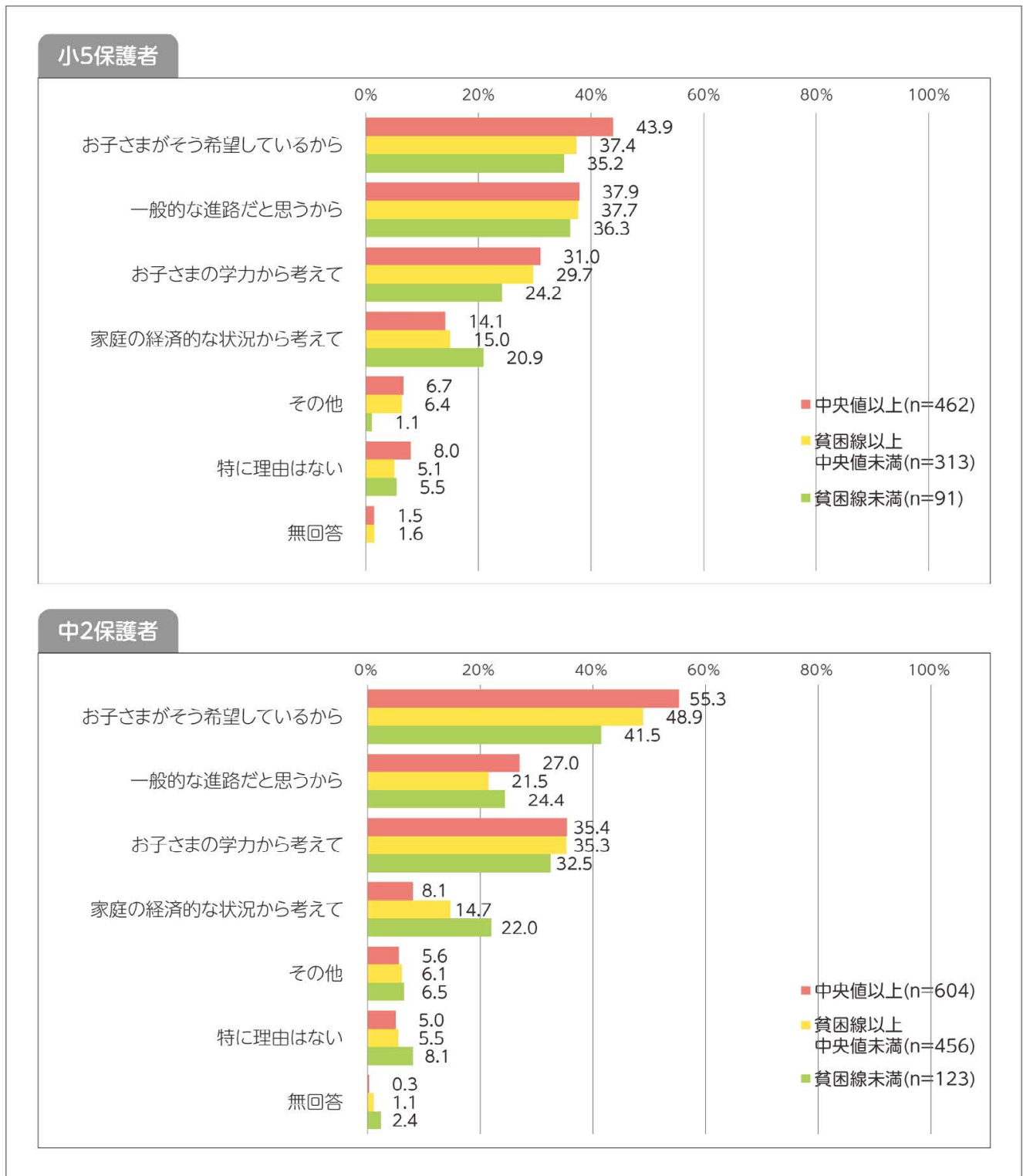


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査〉」

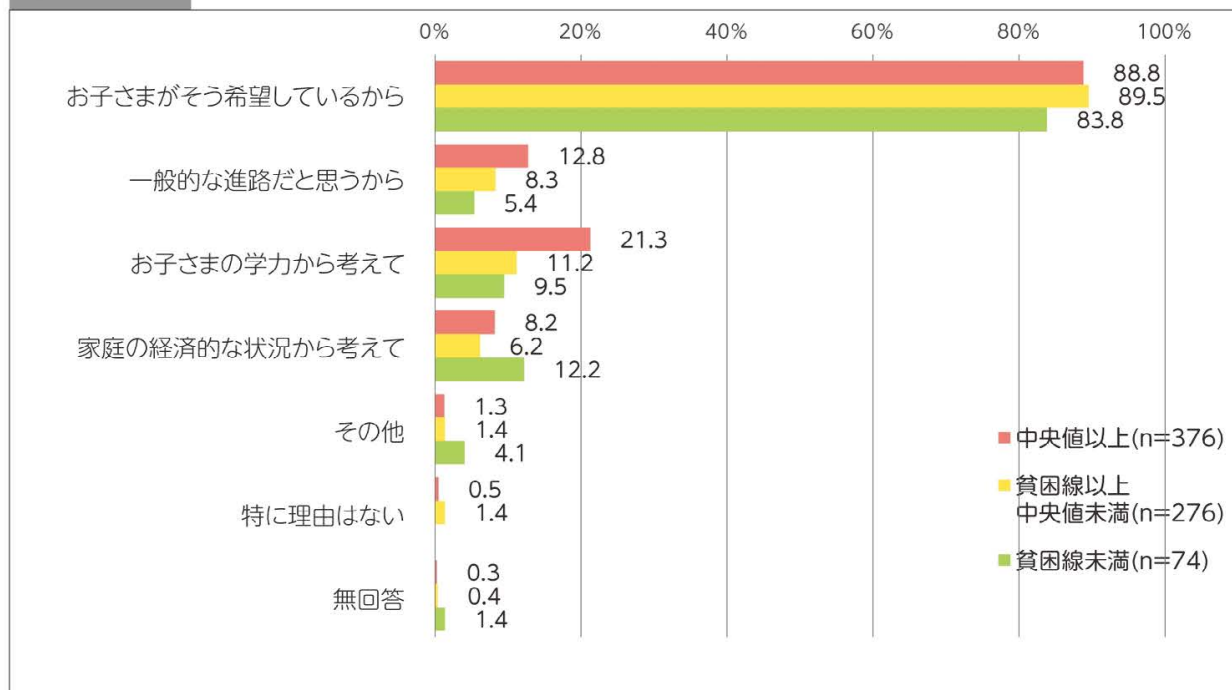
**保護者が子どもの将来の進学の間階を答えた理由として、貧困線未満の世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が他の世帯より高い**

「等価世帯収入の水準」と「子どもの将来の進学の間階を答えた理由（将来の進学の間階で「まだ分からない」以外を回答した人を対象）」の関係について、小学生、中学生、高校生の保護者ともに、「お子さまがそう希望しているから」の割合が高くなっていますが、貧困線未満の世帯では、小学生で35.2%、中学生で41.5%、高校生で83.8%となっており、いずれも他の世帯より低くなっている一方、「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が、小学生で20.9%、中学生で22.0%、高校生で12.2%となっており、いずれも他の世帯より高くなっています。

**■ 図表63 「等価世帯収入の水準」と「子どもの将来の進学の間階を答えた理由（将来の進学の間階で「まだ分からない」以外を回答した人を対象）」（保護者）の関係（複数回答）**



## 高2保護者



資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈保護者調査〉」

**貧困線未満の世帯の保護者は、子どもについての不安や悩みとして、「教育費」「生活費」を挙げる割合が中央値以上の世帯より高い**

「等価世帯収入の水準」と「子どもについての不安や悩み」の関係について、中央値以上の世帯の小学生の保護者では「子どもの成績や進学」の割合が45.0%で最も高く、次いで「子どもの育て方やしつけ」(35.6%)となっています。一方、貧困線未満の世帯の小学生の保護者では、「教育費」の割合が45.1%で最も高く、次いで「生活費」(38.1%)となっています。

中央値以上の世帯の中学生の保護者では「子どもの成績や進学」の割合が62.3%で最も高く、次いで「子どもの友だち関係」(31.3%)となっています。一方、貧困線未満の世帯の中学生の保護者では、「子どもの成績や進学」の割合が60.5%で最も高く、次いで「教育費」(37.6%)となっています。

中央値以上の世帯の高校生の保護者では「子どもの成績や進学」の割合が63.5%で最も高く、次いで「教育費」(31.1%)となっています。また、貧困線未満の世帯の高校生の保護者も「子どもの成績や進学」の割合が60.6%で最も高く、次いで「教育費」(40.4%)となっています。

貧困線未満の世帯の保護者は、小学生、中学生、高校生ともに、「教育費」「生活費」の割合が中央値以上の世帯より高くなっています。

**図表64 「等価世帯収入の水準」と「子どもについての不安や悩み」の関係(複数回答)**

小5保護者		あなたは、今、お子さまについてどのような不安や悩みがありますか												
		子どもの健康	子どもの成績や進学	子どもの友だち関係	子どもの生活態度	子どもの就職	子どもの育て方やしつけ	子どもと保護者との関係	子どもと先生との関係	生活費	教育費	その他	特に悩みはない	無回答
等価世帯収入の水準	中央値以上	18.8	①45.0	③35.3	28.7	8.0	②35.6	7.3	5.0	6.2	19.1	1.4	19.0	0.4
	貧困線以上中央値未満	27.5	①43.4	②43.1	29.1	10.0	③38.9	8.8	10.2	15.9	27.0	1.2	14.5	0.5
	貧困線未満	28.3	31.0	③35.4	34.5	12.4	34.5	12.4	13.3	②38.1	①45.1	1.8	12.4	1.8

中2保護者		あなたは、今、お子さまについてどのような不安や悩みがありますか												
		子どもの健康	子どもの成績や進学	子どもの友だち関係	子どもの生活態度	子どもの就職	子どもの育て方やしつけ	子どもと保護者との関係	子どもと先生との関係	生活費	教育費	その他	特に悩みはない	無回答
等価世帯収入の水準	中央値以上	21.1	①62.3	③21.3	③25.7	12.3	24.9	7.0	10.7	5.6	23.8	1.5	13.6	0.5
	貧困線以上中央値未満	25.4	①68.0	②38.3	28.6	15.1	28.8	10.8	8.8	16.6	③32.9	1.0	8.5	0.7
	貧困線未満	26.8	①60.5	③36.9	29.3	21.7	25.5	12.7	10.8	23.6	②37.6	1.9	13.4	0.6

高2保護者		あなたは、今、お子さまについてどのような不安や悩みがありますか												
		子どもの健康	子どもの成績や進学	子どもの友だち関係	子どもの生活態度	子どもの就職	子どもの育て方やしつけ	子どもと保護者との関係	子どもと先生との関係	生活費	教育費	その他	特に悩みはない	無回答
等価世帯収入の水準	中央値以上	23.4	①63.5	③24.1	19.2	21.4	10.7	5.8	6.3	10.5	②31.1	1.0	12.4	0.5
	貧困線以上中央値未満	③28.0	①54.1	23.5	19.5	24.8	13.7	10.1	6.5	14.7	②40.4	1.3	15.3	1.0
	貧困線未満	27.7	①60.6	24.5	16.0	③31.9	16.0	7.4	5.3	23.4	②40.4	1.1	16.0	—

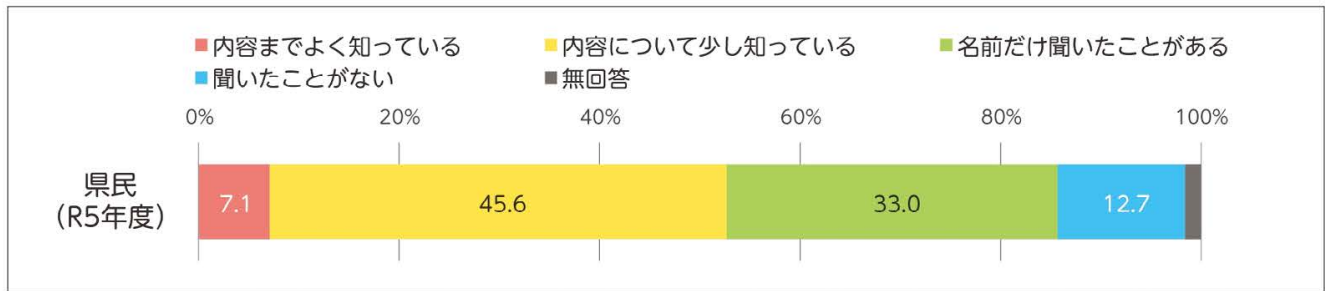
資料：「三重県子ども条例に基づく調査（保護者調査）」  
 ※○で囲んだ数字は、上位3項目を表しています。



## 子どもの貧困の実態を知っている県民は約5割

日本における子どもの貧困の実態について、「内容までよく知っている」または「内容について少し知っている」と答えた県民の割合は52.7%となっています。

■ 図表65 子どもが、経済的困難や、経済的困難に起因して発生するさまざまな問題(病気や発達の遅れ、自尊心や意欲の喪失、学習や進学機会の喪失等)を抱えている状況を「子どもの貧困」と言い、令和3年の全国の子どもの貧困率は11.5%で約9人に1人が貧困状態にあります。特にひとり親世帯では約2人に1人が貧困状態にあります。あなたはこうした日本における子どもの貧困の実態を知っていますか。

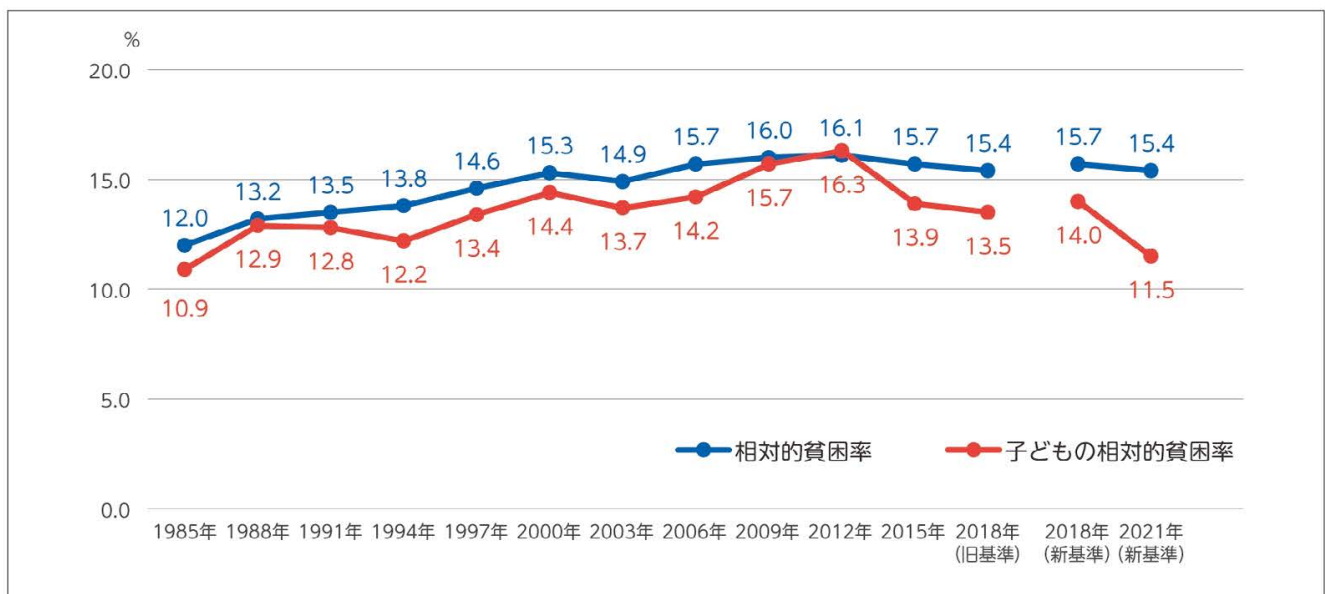


資料：「三重県子ども条例に基づく調査（県民調査）」

## 【参考】子どもの相対的貧困率（全国）は減少傾向

全国における子どもの相対的貧困率はゆるやかな上昇傾向にありましたが、2012年をピークに減少傾向となっています。

## ■ 図表66 相対的貧困率の推移(全国)



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」

### 「国民生活基礎調査」における＜相対的貧困率＞と＜子どもの相対的貧困率＞

＜相対的貧困率＞一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合

※貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額

＜子どもの相対的貧困率＞17歳以下の子ども全体に占める等価可処分所得が貧困線に満たない子どもの割合

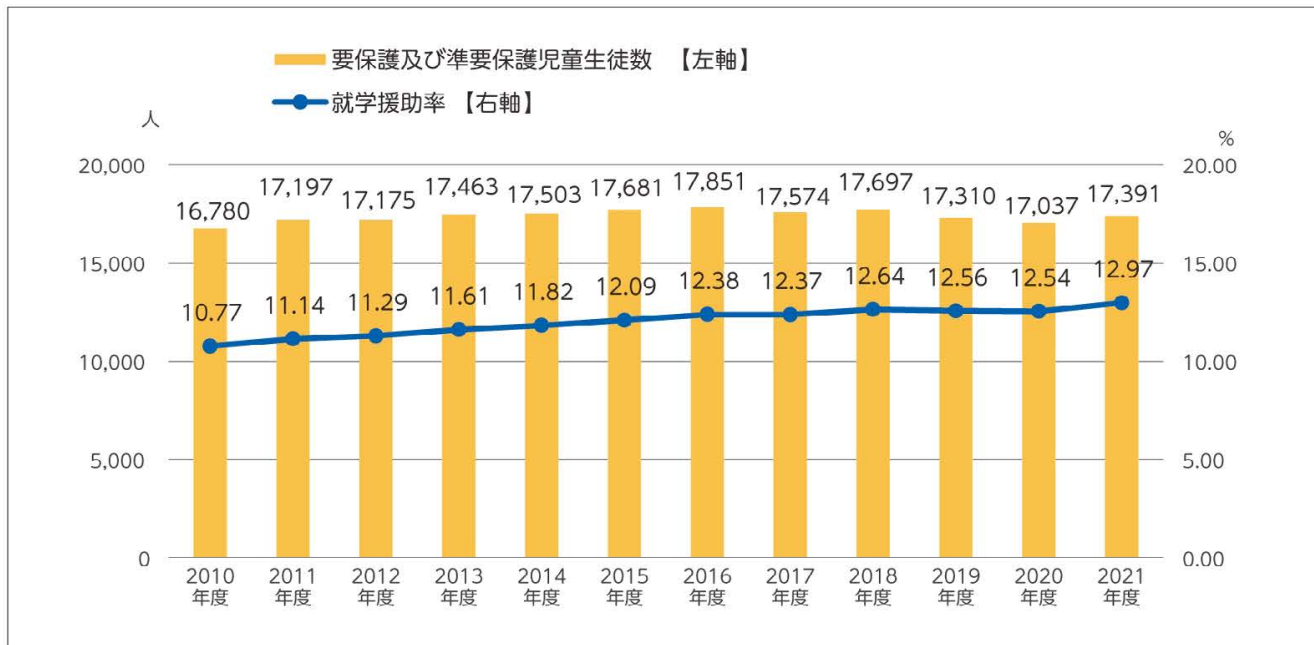
※「新基準」は、2015年に改定されたOECDの所得定義の新たな基準で、従来の可処分所得から更に「自動車税・軽自動車税・自動車重量税」、「企業年金の掛金」及び「仕送り額」を差し引いて算出

※本白書における「相対的貧困率」(P62)と算出方法が異なるため、比較には注意が必要です。

## 就学援助率は増加傾向

少子化により児童生徒数が減少傾向にある中、公立小中学校において、経済的な理由により、学用品費や修学旅行費などの援助を受けている要保護及び準要保護児童生徒数は、2011年度以降、17,000人台で推移しており、就学援助率は増加傾向です。2021年度の就学援助率は12.97%で約8人に1人の割合となっています。

■ 図表67 要保護及び準要保護児童生徒数及び就学援助率の推移(三重県)



資料：文部科学省「就学援助実施状況等調査」

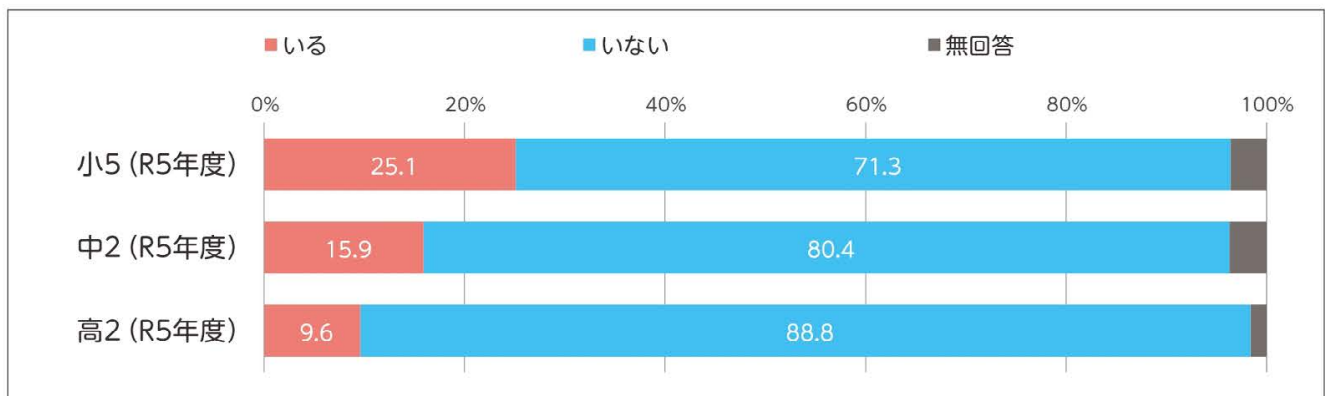
※就学援助率とは、要保護及び準要保護児童生徒数を公立小中学校児童生徒数で除して算出したもの

### 家族の中にお世話をしている人がいる割合は小学生が最も高い

家族の中にお世話（ふつう大人が行うような家事や家族の世話）をしている人がいるかについて、「いる」と答えた小学生は25.1%、中学生は15.9%、高校生は9.6%となっています。

なお、全国の小学生、中学生、高校生を対象に行われた調査（「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」(令和2年度、令和3年度)）によると、世話をしている家族が「いる」と答えた小学生は6.5%、中学生は5.7%、全日制高校生は4.1%、定時制高校生は8.5%となっています。

■ 図表68 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは、ふつう大人が行うような家事や家族の世話を指します。)



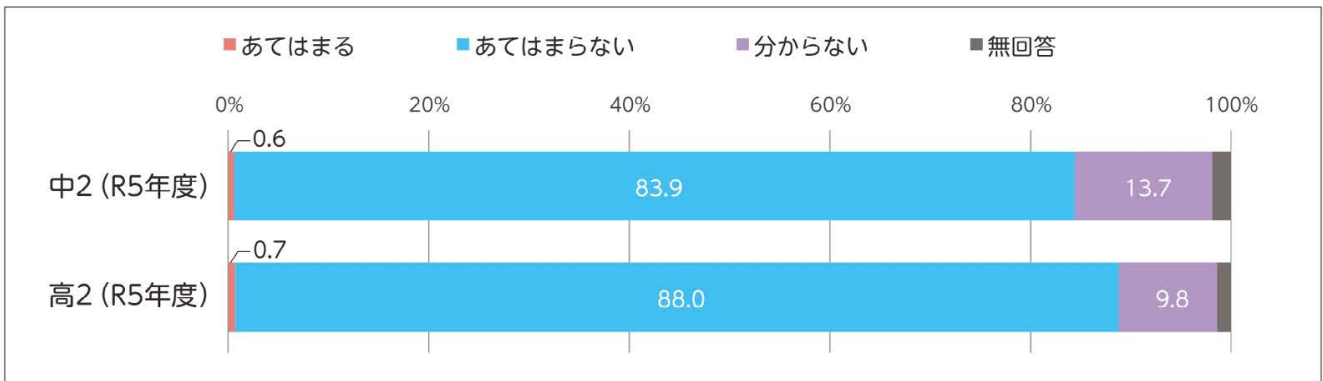
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

## 自身をヤングケアラーと思う中学生、高校生は1%未満

自分自身をヤングケアラーにあてはまると思うかについて、「あてはまる」と答えた中学生は0.6%、高校生は0.7%となっています。

なお、全国の中学生、高校生を対象に行われた調査（「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」(令和2年度)）によると、自身がヤングケアラーに「あてはまる」と答えた中学生は1.8%、全日制高校生は2.3%、定時制高校生は4.6%となっています。

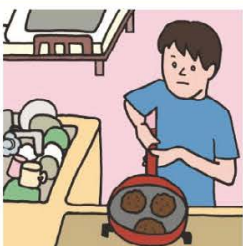
■ 図表69 ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。



資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」  
 ※回答者は下のイラストを見た上で設問に回答しています。

## ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいはしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

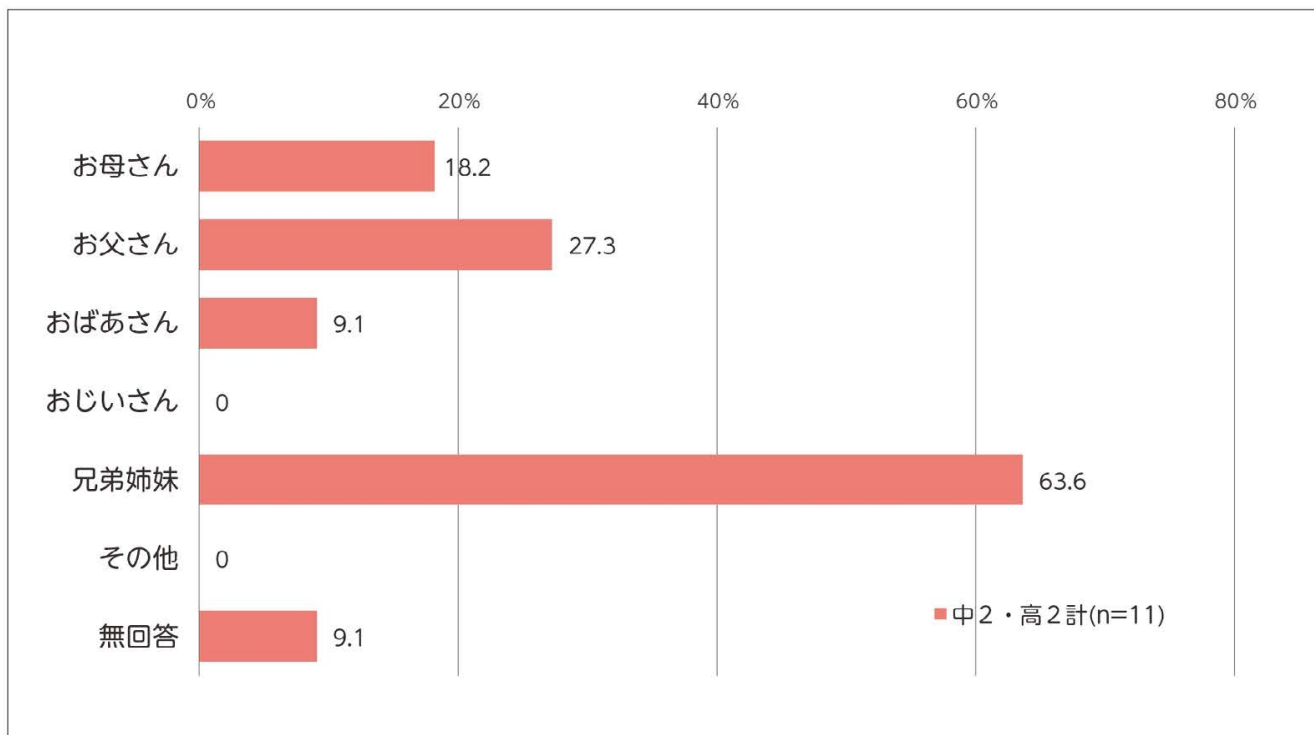
©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

## 自身をヤングケアラーと思う中学生、高校生がお世話をしている相手は「兄弟姉妹」の割合が最も高い

自身がヤングケアラーにあてはまる、かつ家族の中にお世話をしている人がいると答えた中学生、高校生がお世話をしている相手は「兄弟姉妹」が63.6%で最も高くなっています。

なお、全国の中学生、高校生を対象に行われた調査（「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」(令和2年度)）によると、中学生は「きょうだい」が61.8%で最も高く、次いで「父母」(23.5%)、「祖父母」(14.7%)、全日制高校生は「きょうだい」が44.3%で最も高く、次いで「父母」(29.6%)、「祖父母」(22.5%)、定時制高校生も同様の傾向となっています。

■ 図表70 あなたは誰のお世話をしていますか(自身がヤングケアラーにあてはまる、かつ家族の中にお世話をしている人がいると回答した中学生・高校生が対象)(複数回答)



資料：「三重県子ども条例に基づく調査（子ども調査）」

子どもを支援する取組を行っている NPO の方にお聞きしました。

### ● ヤングケアラーについて

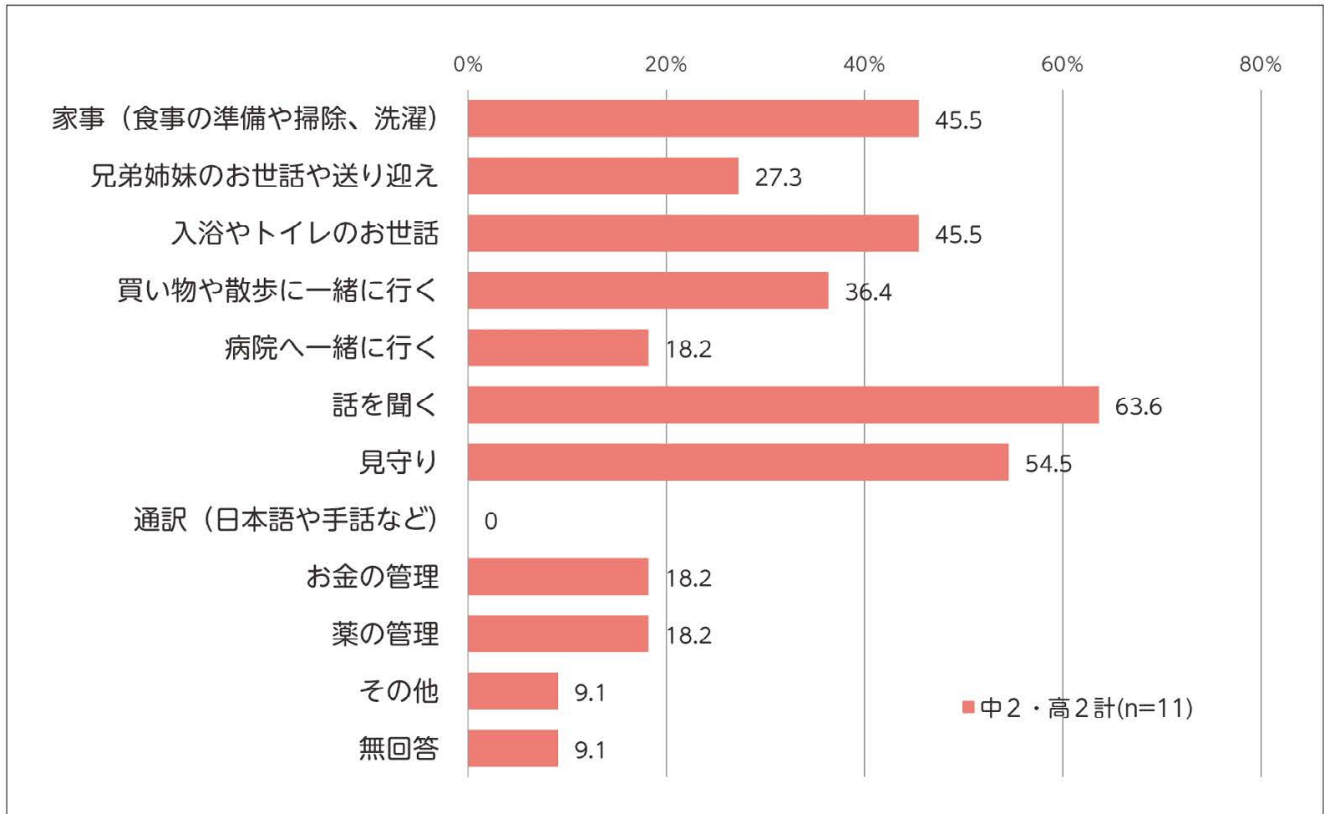
ヤングケアラーの定義づけが難しいと感じています。子どもにとって、妹や弟のお世話をするなど、自分自身がやろうと思ったことに責任を持って取り組むことで到達できる喜び、学びもあると考えています。一方で、要支援家庭をみていると、親がやりたくないと思うことを、子どもが察知して進んでやっているケースがあります。これは、親がやりたくないことを子どもにやらせているだけであり、ヤングケアラーに該当すると捉えています。このようなケースは注視、支援していく必要があると感じています。

(NPO 法人 三重県子ども NPO サポートセンター)

## 自身をヤングケアラーと思う中学生、高校生がしているお世話の内容は「話を聞く」、「見守り」の割合が高い

自身がヤングケアラーにあてはまる、かつ家族の中にお世話をしている人がいると答えた中学生、高校生が行っているお世話の内容は、「話を聞く」が63.6%で最も高く、次いで「見守り」(54.5%)となっています。

■ 図表71 あなたはどのようなお世話をしていますか(自身がヤングケアラーにあてはまる、かつ家族の中にお世話をしている人がいると回答した中学生・高校生が対象)(複数回答)



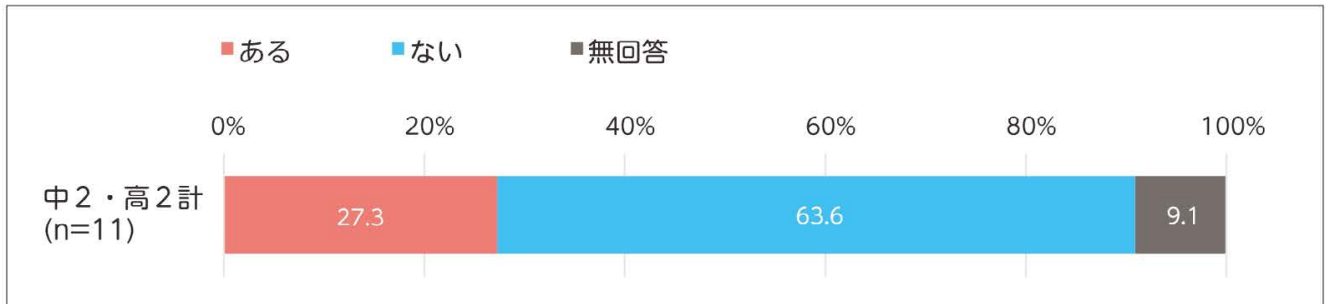
資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

### 自身をヤングケアラーと思う中学生、高校生が誰かに相談したことがある割合は約3割

自身がヤングケアラーにあてはまる、かつ家族の中にお世話をしている人がいると答えた中学生、高校生のうち、お世話をしている家族のことやお世話の悩みについて誰かに相談したことがある割合は27.3%となっています。

なお、全国の中学生、高校生を対象に行われた調査（「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」(令和2年度)）によると、「ある」と答えた中学生は21.6%、全日制高校生は23.5%、定時制高校生は32.3%となっています。

■ 図表72 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか(自身がヤングケアラーにあてはまる、かつ家族の中にお世話をしている人がいると回答した中学生・高校生のみ)

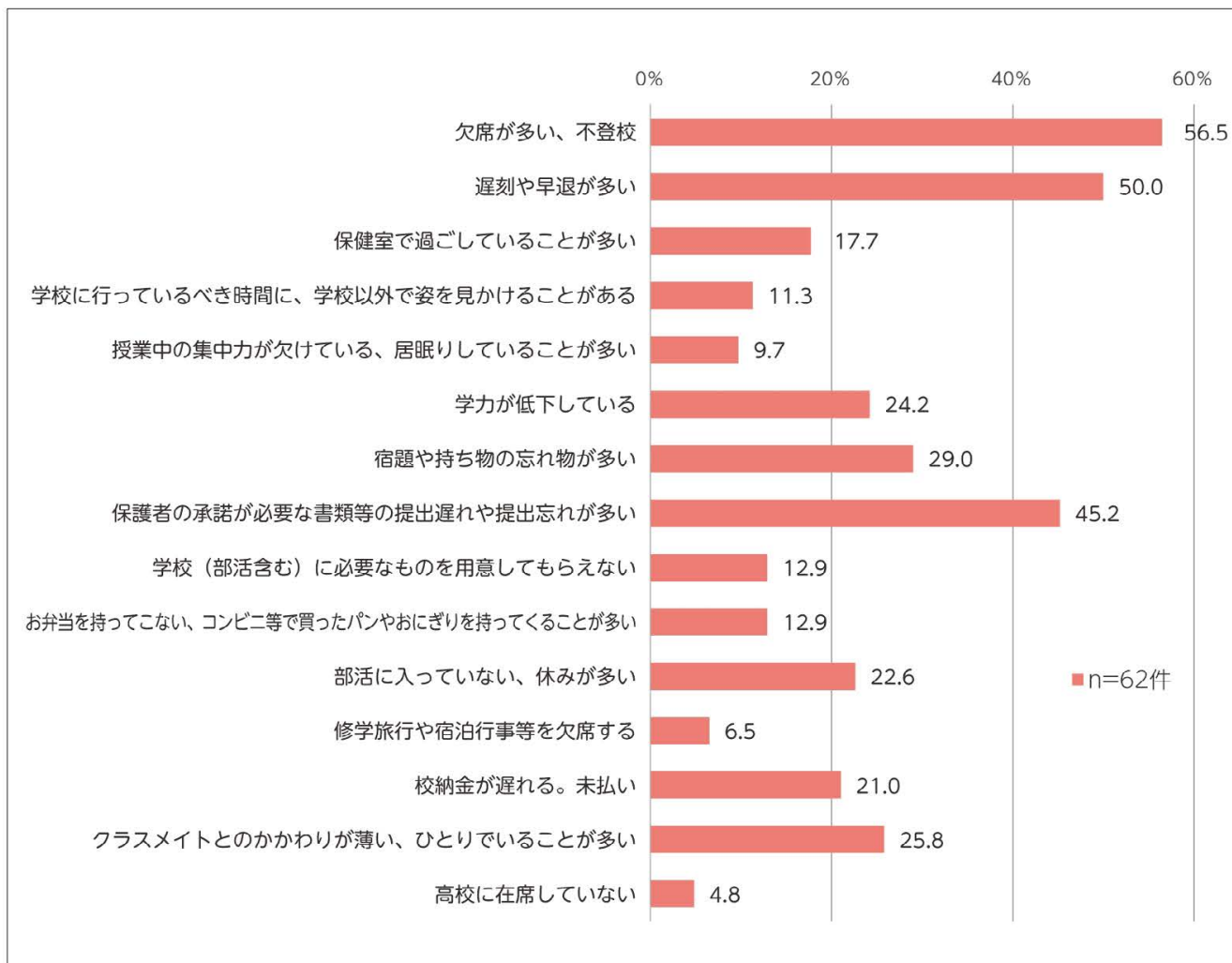


資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

## 「教育を受ける権利」についてのヤングケアラーの状況は、「欠席が多い、不登校」の割合が最も高い

ヤングケアラーと思われる子どもについて、19市町の要保護児童対策地域協議会に対して行った聞き取り調査では、「教育を受ける権利」の状況について、「欠席が多い、不登校」の割合が56.5%で最も高く、次いで「遅刻や早退が多い」(50.0%)、「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」(45.2%)となっています。

■ 図表73 「教育を受ける権利」についてのヤングケアラーの状況(三重県)(複数回答)



資料：「三重県ヤングケアラー実態調査(令和4年度)」

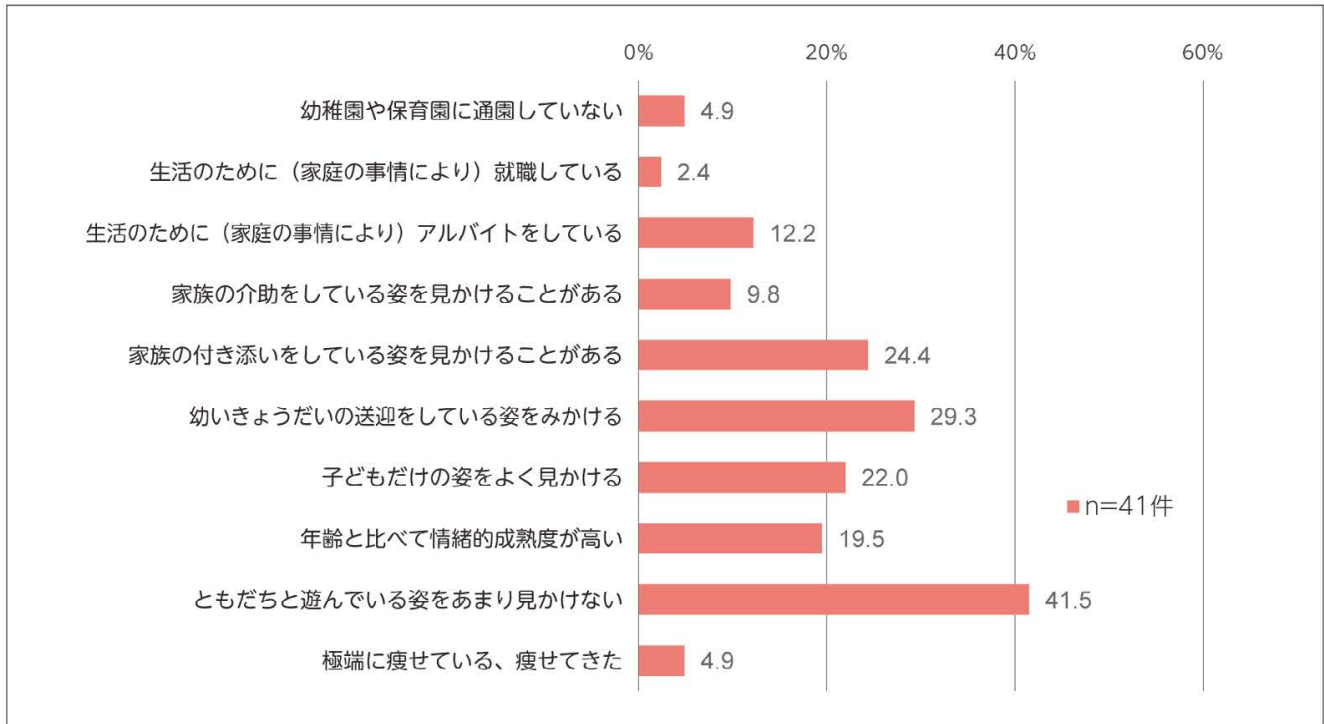
※聞き取り調査対象75件中、「教育を受ける権利」のいずれかの項目に回答のあった62件を母数として割合を算出



## 「子どもらしく過ごせる権利」についてのヤングケアラーの状況は、「ともだちと遊んでいる姿をあまり見かけない」の割合が最も高い

ヤングケアラーと思われる子どもについて、19市町の要保護児童対策地域協議会に対して行った聞き取り調査では、「子どもらしく過ごせる権利」の状況について、「ともだちと遊んでいる姿をあまり見かけない」の割合が41.5%で最も高く、次いで「幼いきょうだいの送迎をしている姿をみかける」(29.3%)、「家族の付き添いをしている姿を見かけることがある」(24.4%)となっています。

■ 図表74 「子どもらしく過ごせる権利」についてのヤングケアラーの状況(三重県)(複数回答)



資料：「三重県ヤングケアラー実態調査(令和4年度)」

※聞き取り調査対象75件中、「子どもらしく過ごせる権利」のいずれかの項目に回答のあった41件を母数として割合を算出

## 3

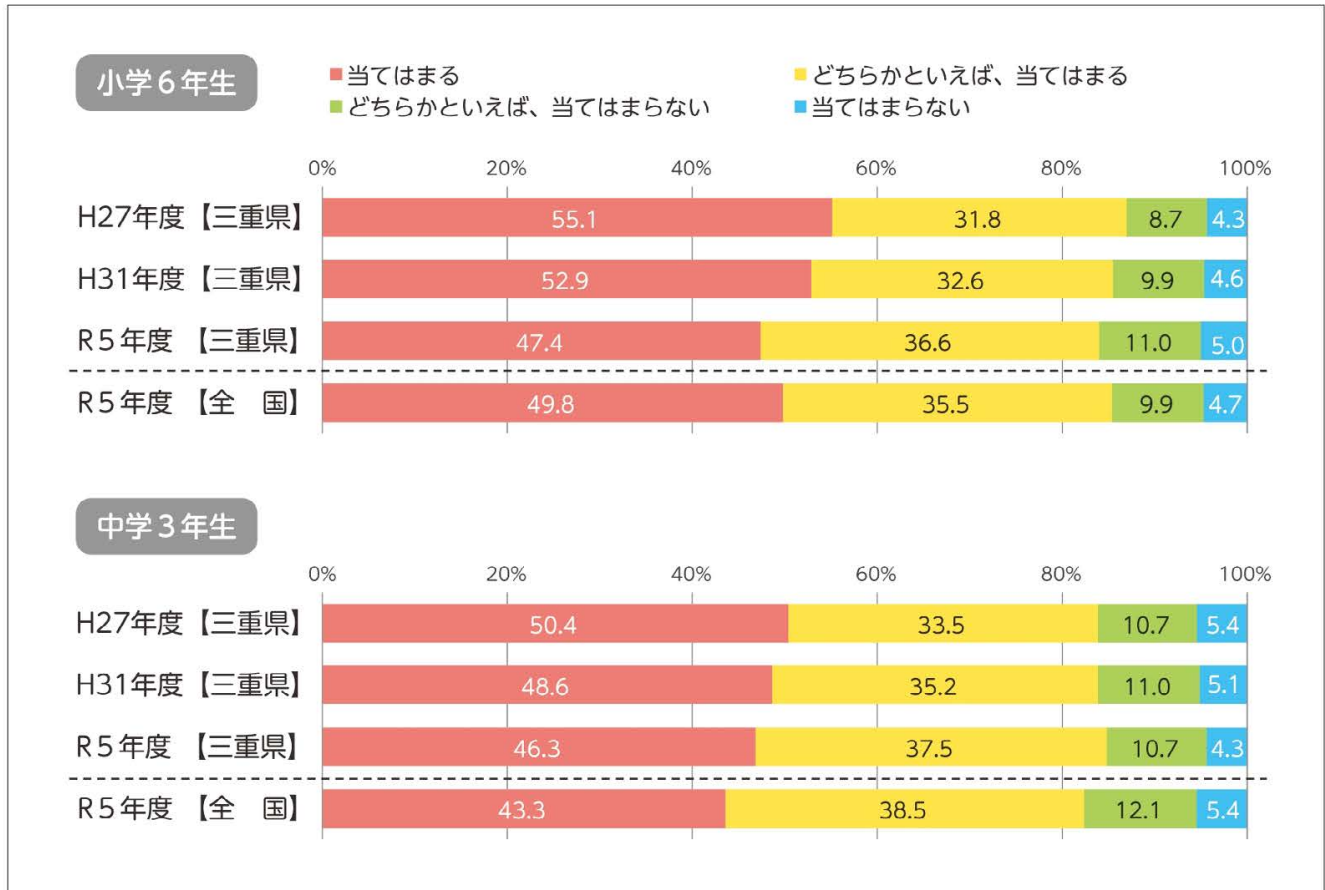
## 不登校やその他困難な状況にある子どもたち

## 学校に行くのが楽しいと思う子どもは約8割

学校に行くのは楽しいと思うかについて、「思う」または「どちらかといえば、思う」と肯定的に答えた小学生は84.0%、中学生は83.8%となっています。「思う」と答えた小学生、中学生の割合はいずれも減少傾向です。

※わかりやすくするため、調査上の選択肢とは異なる表現で説明文を記載しています。

■図表75 学校に行くのは楽しいと思いますか



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

子どもを支援する取組を行っているNPOの方にお聞きしました。

●フリースクールについて

フリースクールは学校ごとにコンセプトや特徴が異なるため、子どもや保護者は複数のフリースクールを体験してから選択することが多く、私たちが運営する「ラピュタすずか」には市外から通っている子どももいます。不登校になる理由が以前とは異なっているように感じます。学校の授業に出ることは難しくても、運動会や卒業式、その練習には参加できる子どももいます。苦しい気持ちで学校に行くことがよいことだとは思いませんが、学校に行きたいと思っていて、学校に行けなくなったのであれば、その理由を解消することが大切だと考えます。

(NPO 法人 shining)

## 学校に行きたくないと感じるときは、「何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき」の割合が最も高い

学校に行きたくないと感じるときがあるか、またある場合はどのようなときかについて、小学生は「学校に行きたくないと感じることはない」の割合が45.7%と最も高く、次いで「何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき」(25.7%)、「友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき」(10.4%)となっています。中学生、高校生は「何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき」の割合がそれぞれ39.3%、45.0%で最も高く、次いで「学校に行きたくないと感じることはない」(それぞれ34.3%、29.4%)、「『友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき』以外の理由で友人関係に不安があるとき」(それぞれ16.3%、16.9%)となっています。

「何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき」の割合は、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて高くなっています。

■ 図表76 あなたは、学校に行きたくないと感じることがありますか。ある場合、それはどのようなときですか(複数回答)

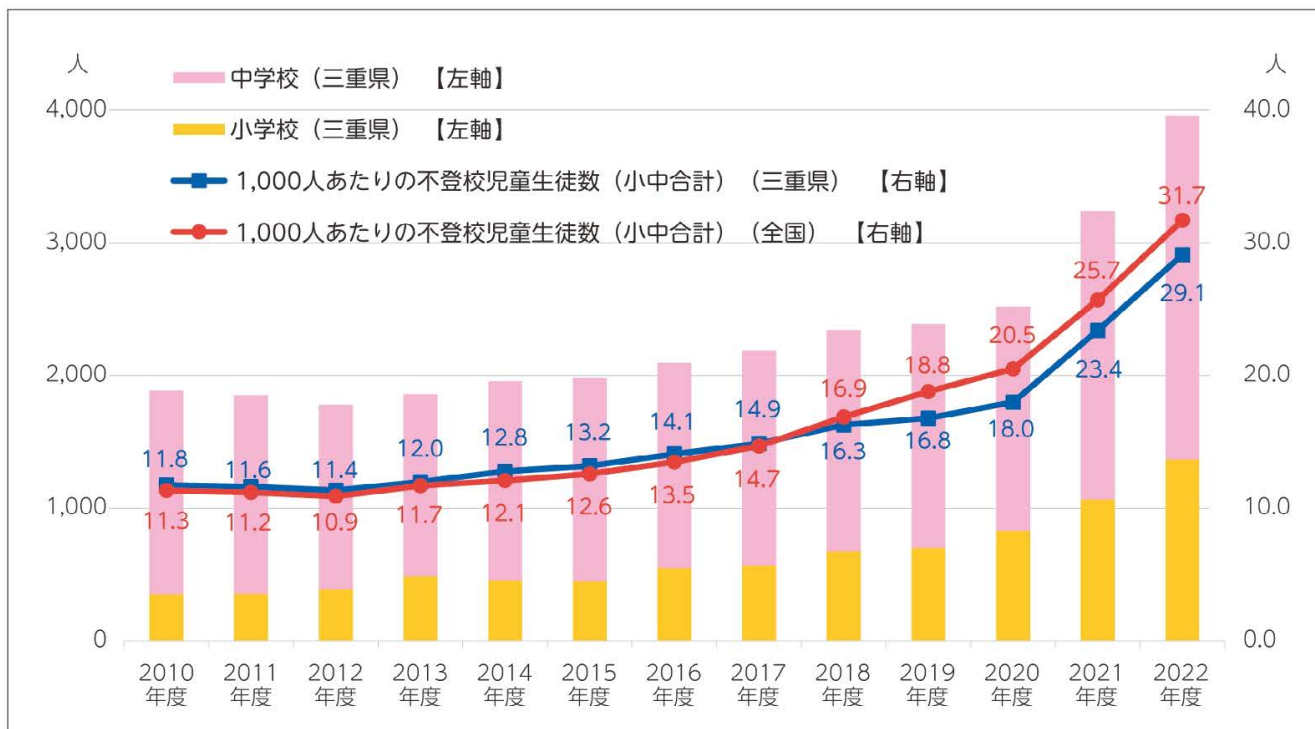
	小学5年生	中学2年生	高校2年生
	R5年度	R5年度	R5年度
友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき	③10.4	7.9	6.2
『友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき』以外の理由で友人関係に不安があるとき	7.6	③16.3	③16.9
学校の先生との関係に不安を感じているとき	3.5	4.8	4.0
授業が分からないとき	9.6	11.9	12.8
進路や将来に不安を感じているとき	3.5	10.1	11.8
クラブ活動(部活動)で悩んでいるとき	0.9	11.6	10.7
学校のきまりに馴染めないとき	2.7	4.0	4.3
新しい学校や学級に馴染めないとき	3.6	7.3	8.8
勉強やクラブ活動(部活動)に必要なものを買ってもらえないとき	0.3	0.6	0.4
家庭の環境が急に変わって不安があるとき	1.4	1.7	1.3
親(保護者)との関係に不安があるとき	1.7	3.1	2.3
家族内の関係がうまくいっていないとき	1.8	3.2	2.8
学校生活以外に興味や関心があるとき	4.2	10.6	11.3
何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき	②25.7	①39.3	①45.0
その他	8.6	7.0	4.7
学校に行きたくないと感じることはない	①45.7	②34.3	②29.4
無回答	8.1	8.6	7.2

資料：「三重県子ども条例に基づく調査〈子ども調査〉」

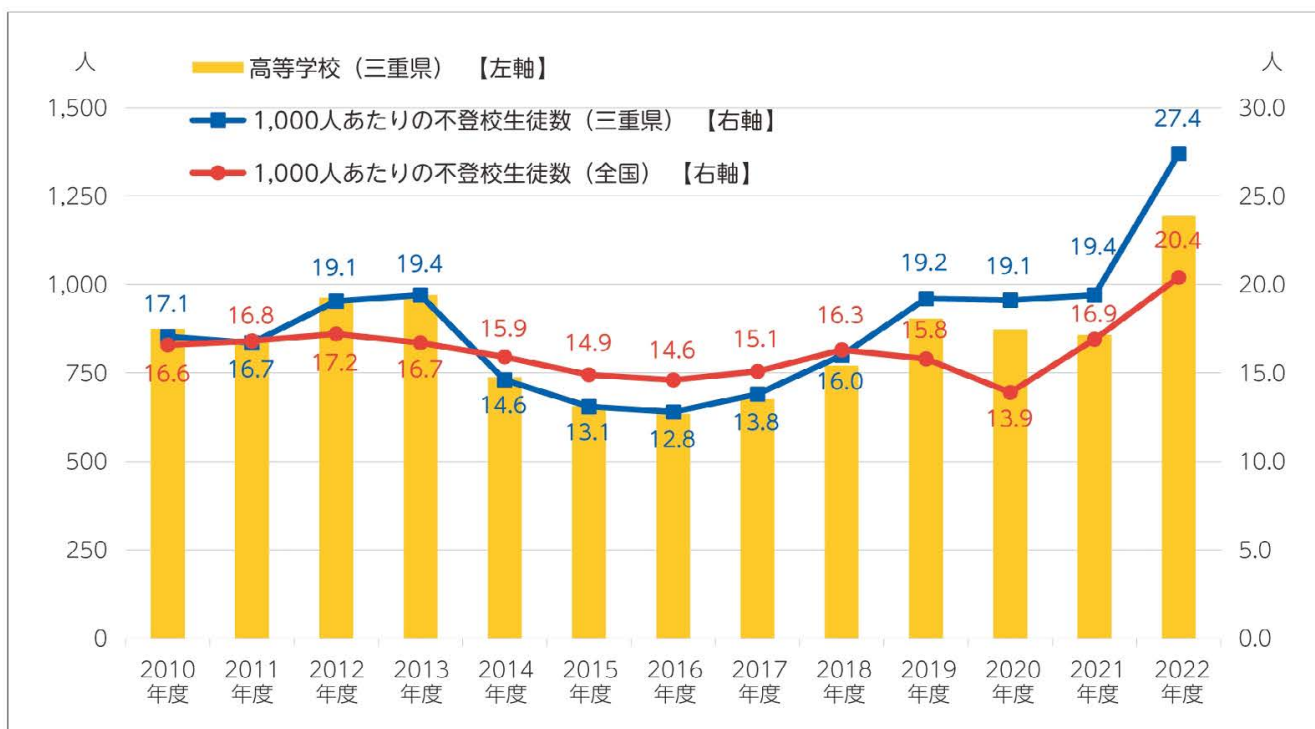
## 小学校、中学校の不登校児童生徒数は増加

2022年度の不登校児童生徒数は小学校で1,368人、中学校で2,590人となり、いずれも過去最多となっています。1,000人あたりの不登校児童生徒数は29.1人となり、2年前(2020年度)より11.1人増加しており、全国と同様の傾向となっています。また、2022年度の高等学校の不登校生徒数は1,193人で、こちらも過去最多となっています。1,000人あたりの不登校生徒数は27.4人となり、前年度から8.0人増加しており、全国より7.0人多くなっています。

■ 図表77 不登校児童生徒数(小学校・中学校)の推移



■ 図表78 不登校生徒数(高等学校)の推移



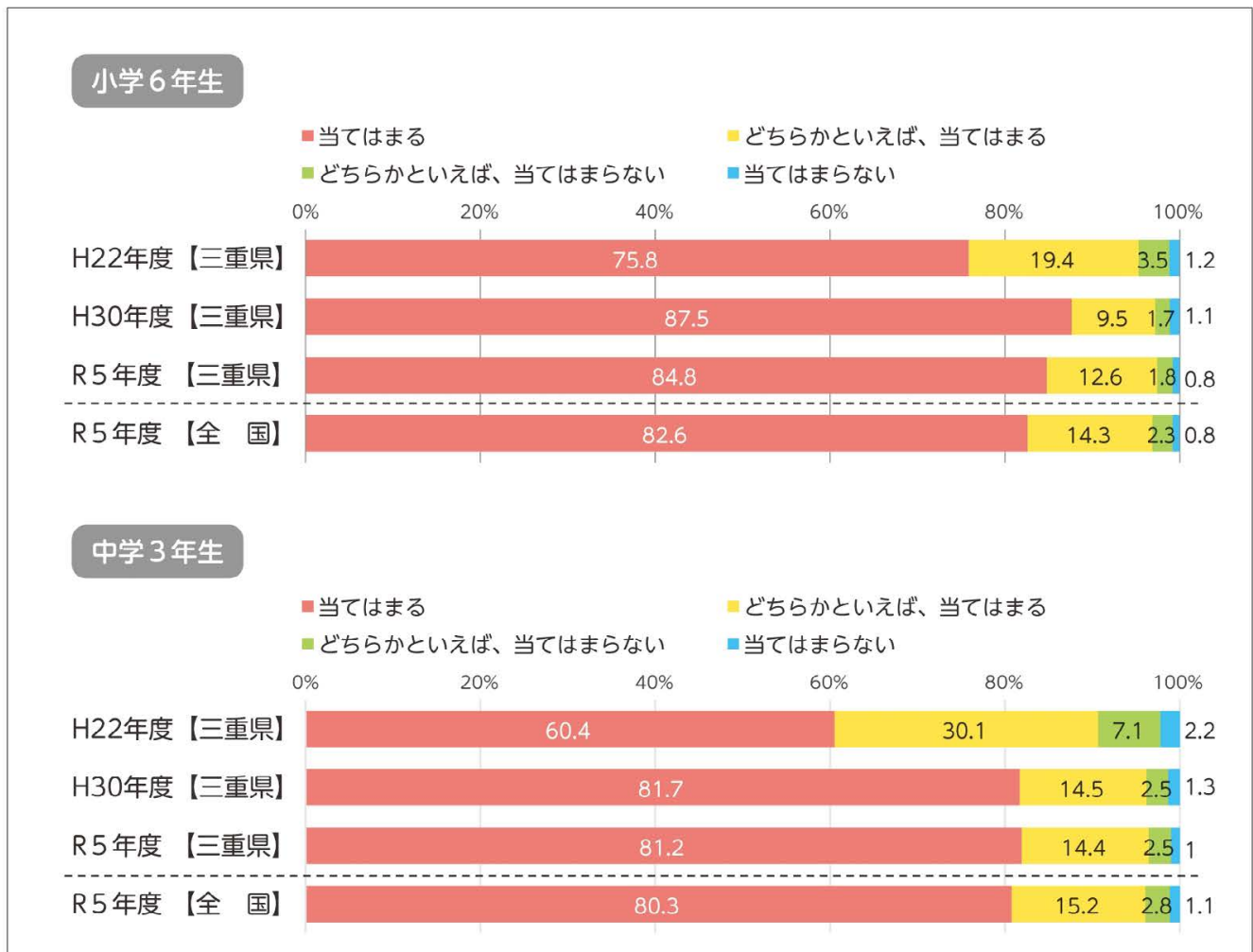
資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」(2015年度以前は、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(旧調査名))

## 小学生、中学生のほとんどが、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うかについて、「思う」または「どちらかといえば、思う」と肯定的に答えた小学生は97.4%、中学生は95.6%となっています。特に、「思う」と答えた小学生は84.8%、中学生は81.2%となり、平成22年度に比べて、それぞれ9.0ポイント、20.8ポイント高くなっています。

※わかりやすくするため、調査上の選択肢とは異なる表現で説明文を記載しています。

■ 図表79 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

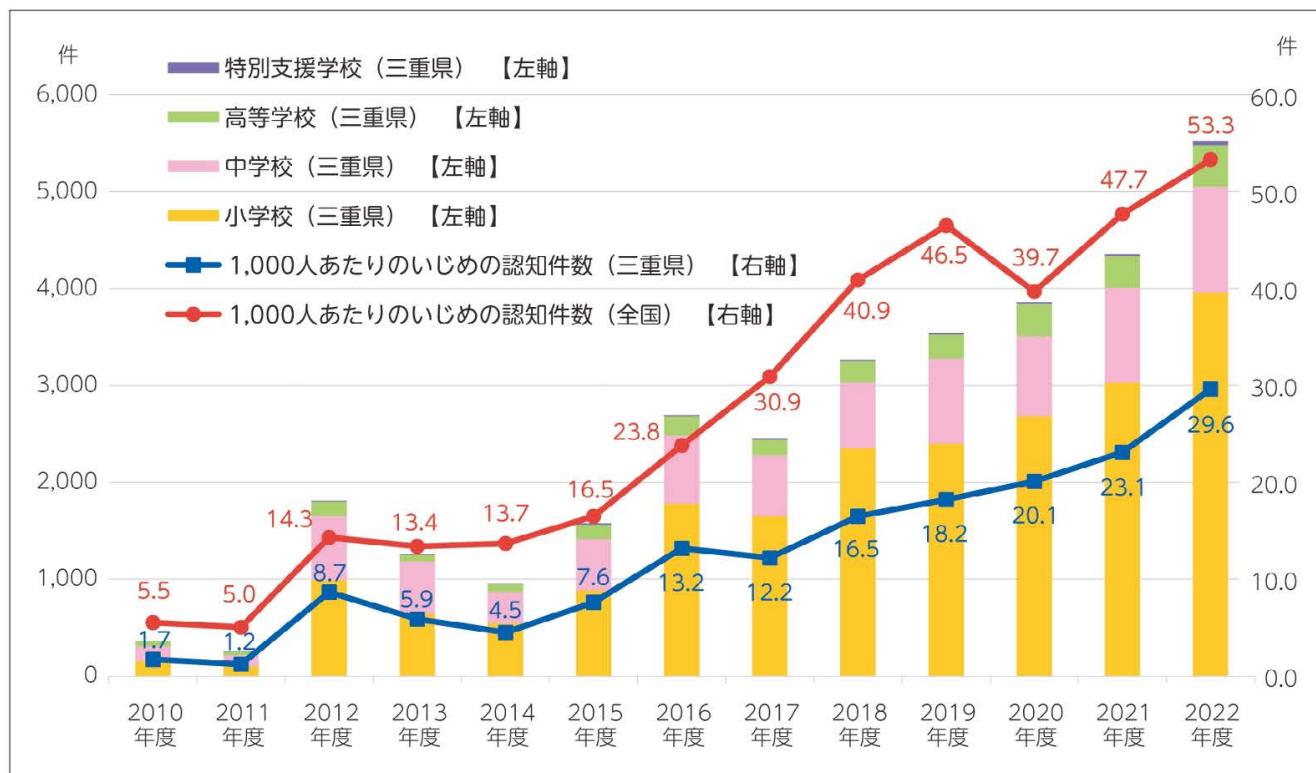


資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

## いじめの認知件数は増加

2022年度のいじめの認知件数は小学校が3,958件、中学校が1,095件、高等学校が426件、特別支援学校が39件となり、いずれも前年より増加して過去最多となっています。また、1,000人当たりの認知件数は29.6件となり、5年連続で増加しています。全国と比較すると、23.7件少なくなっています。

■ 図表80 いじめの認知件数の推移

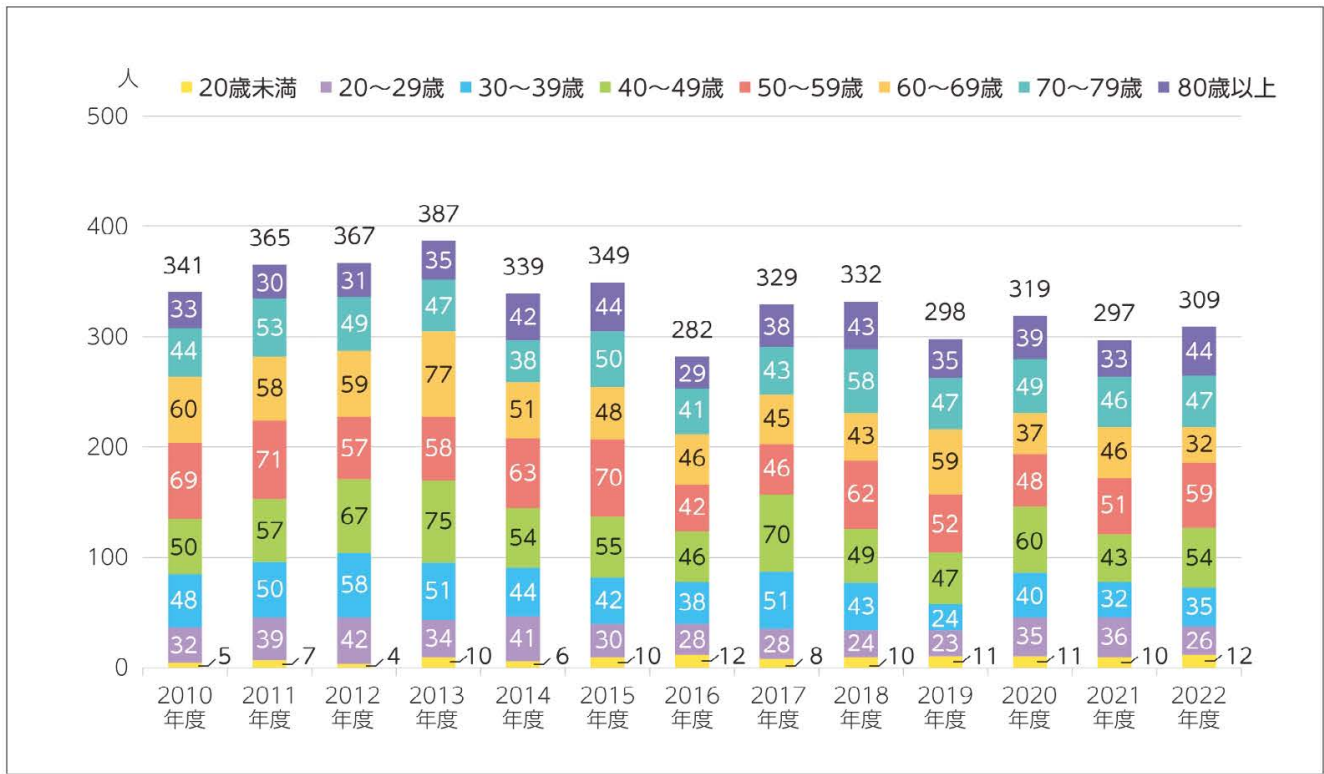


資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」（2015年度以前は、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（旧調査名））

## 20歳未満の自殺者数は10人前後で推移

少子化の進行により、子どもの数が減少している中、20歳未満の自殺者数は2013年度以降、10人前後で推移しています。

■ 図表81 年齢別自殺者数(三重県)

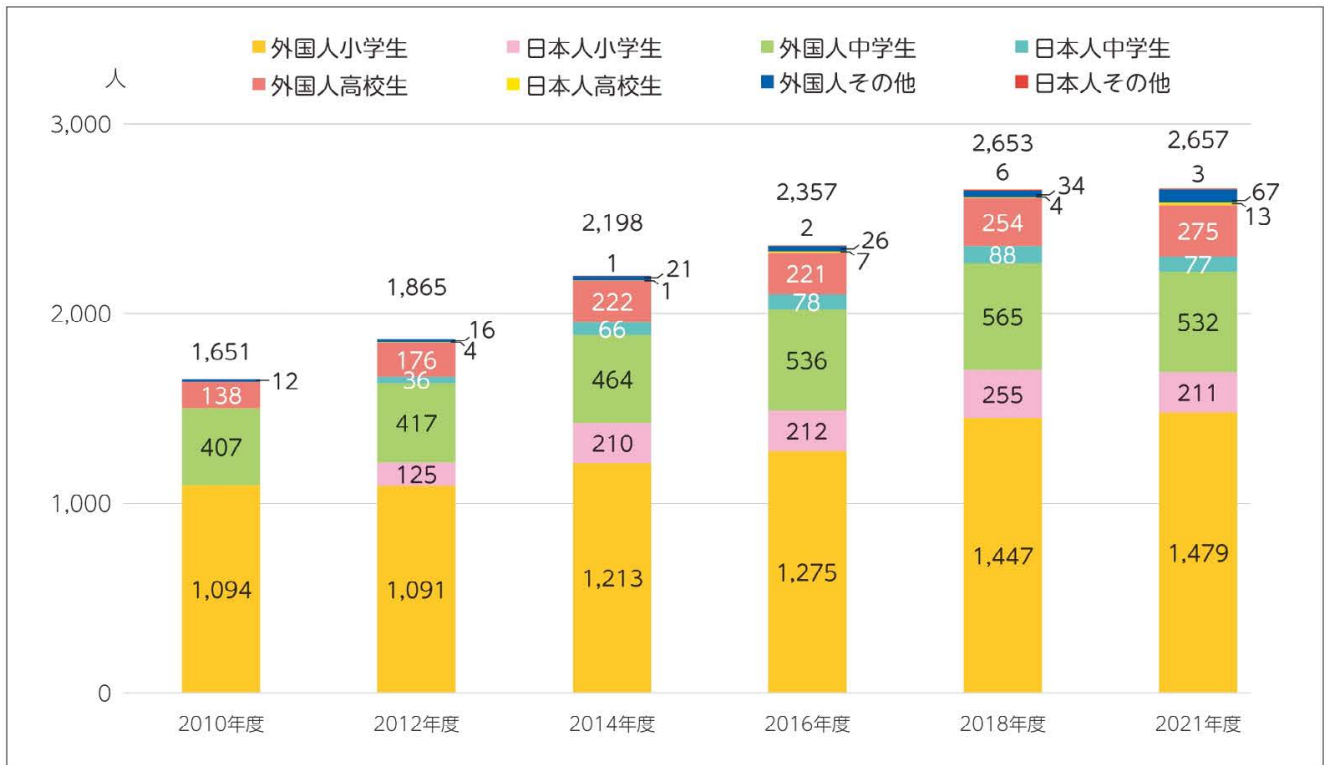


資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

## 日本語指導が必要な児童生徒数は増加傾向

2021年度の日本語指導が必要な児童生徒数は2,657人となり、増加傾向です。そのうち、外国人小学生が1,479人で過半数を占めています。

■ 図表82 日本語指導が必要な児童生徒数の推移(三重県)



資料：文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」  
 ※その他は、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校を合算している。  
 ※2010年度は、外国人のみが調査対象となり、日本人は含まれていない。

子どもを支援する取組を行っているNPOの方にお聞きしました。

### ●日本語教育について

外国につながる子どもについて、今は日本生まれの日本育ちの子どもが増えていますが、考えるためのベースとなる言語を習得できていない子どもが増えていると感じています。言語を確立するためには、親子間の会話やふれあいが大切ですが、親が長時間働いていて親子の時間が取れない家庭も少なくありません。

日本で生まれて、日本で育った子どもは、保育園や学校の中で日本語に触れているため、通訳を必要としない子どもも少なくありません。一方で、聞いているのは、学校など限られた範囲で交わされる言葉のため、語彙が少ないことや、日本の文化や習慣等になじみが薄い言葉の意味を理解できていないことが多いです。

言葉の意味を理解して考える力がないと、学力も伸びません。各自治体では、就学後に日本語を学ぶことができる取組が進んでいますが、就学前に思考のための言葉を習得するための支援体制も重要だと考えています。

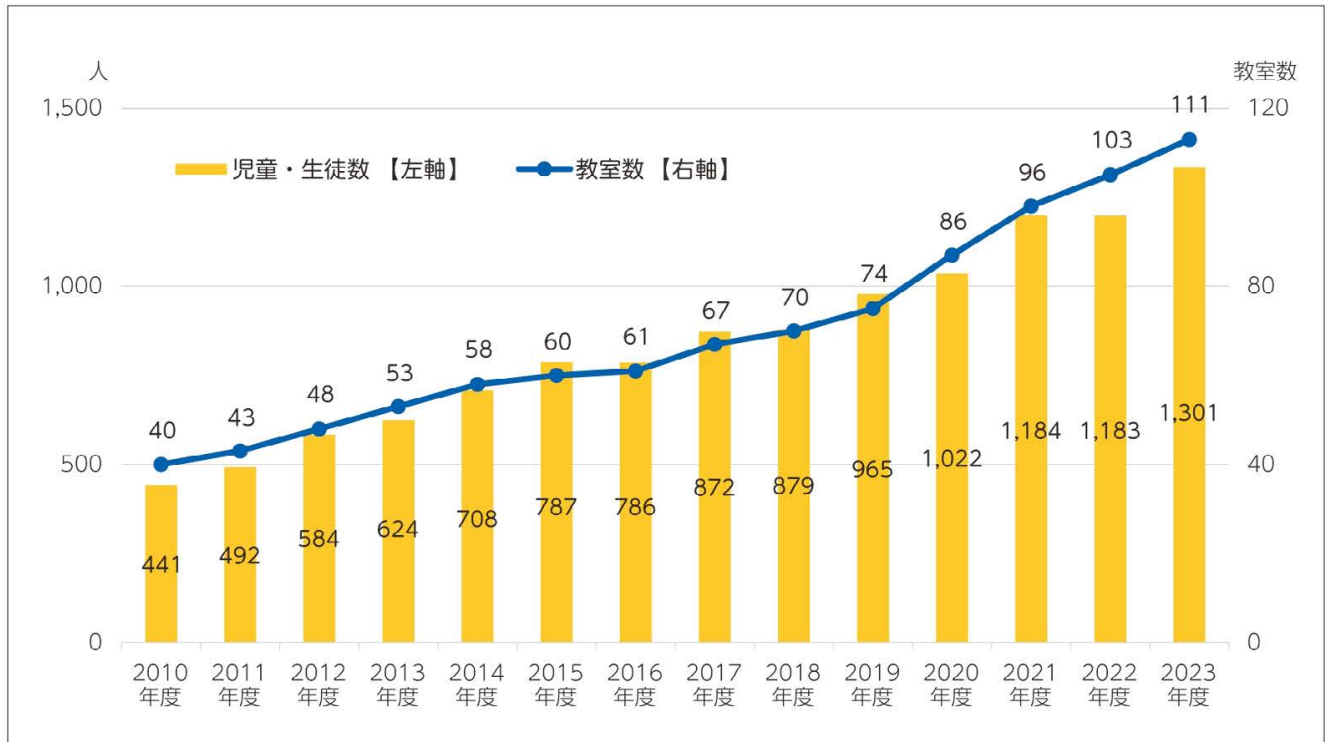
(NPO 法人 愛伝舎)



## 通級による指導を受けている児童生徒数と設置教室数は増加

2023年度の公立小中学校における通級による指導を受けている児童生徒数は1,301人、設置教室数は111となり、いずれも増加傾向です。

■ 図表83 公立小中学校における通級による指導を受けている児童生徒数と設置教室数の推移（三重県）

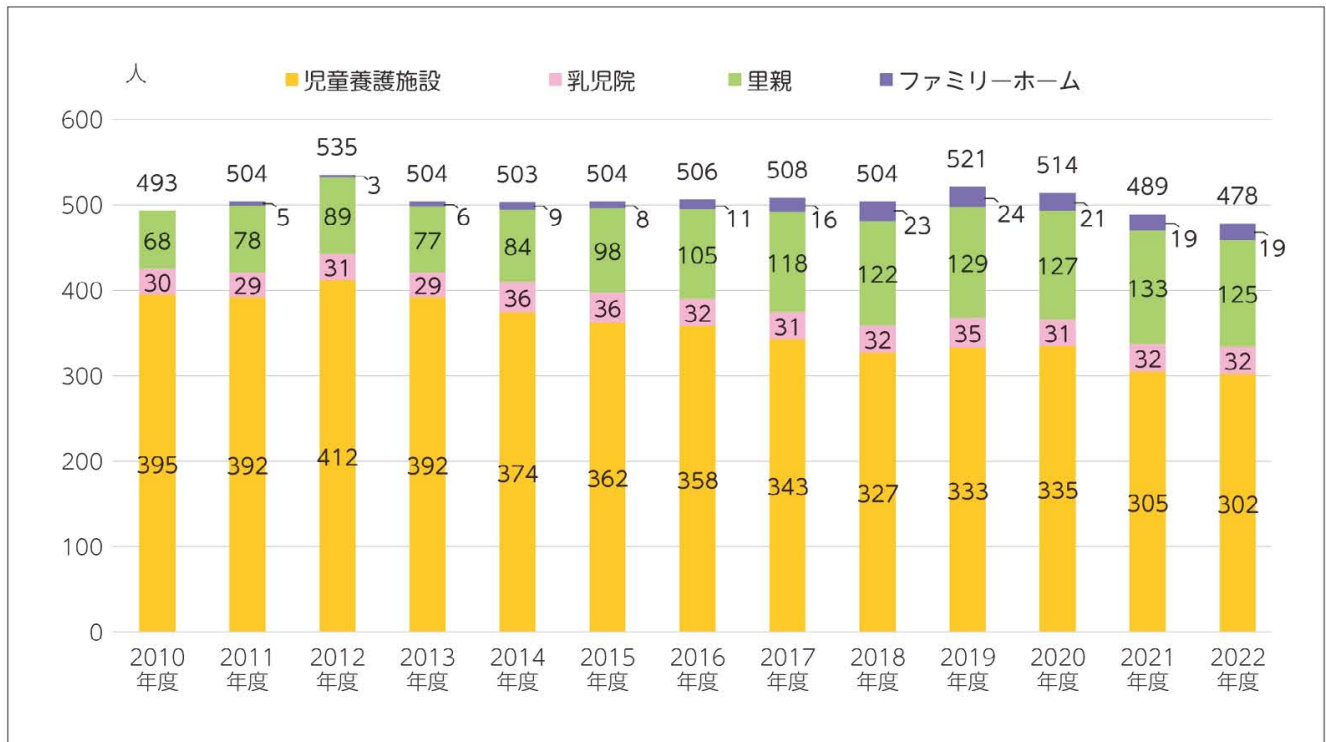


資料：三重県教育委員会

## 社会的養護を受けている要保護児童数は約 500 人

社会的養護を受けている要保護児童数は、2011 年度以降 500 人台で推移していましたが、2021 年度以降、500 人を下回っています。

■ 図表84 社会的養護を受けている要保護児童数の推移(三重県)

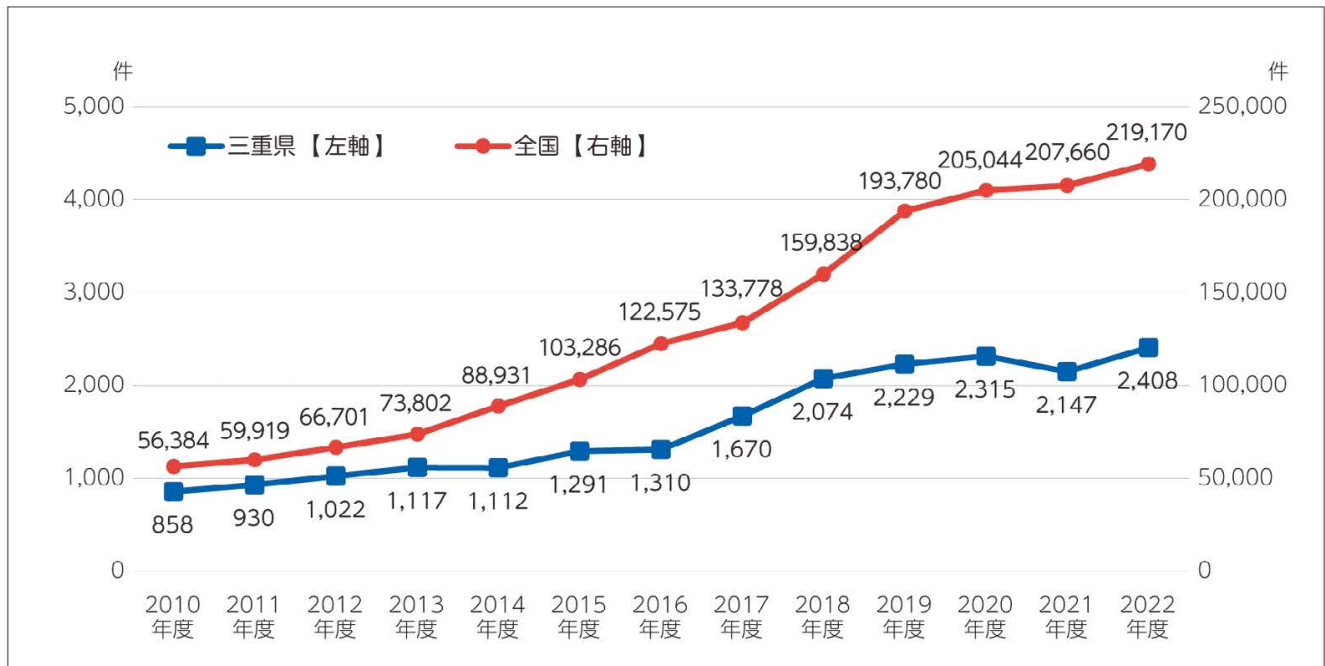


資料：厚生労働省「福祉行政報告例」

## 児童虐待相談対応件数は増加

児童相談所における児童虐待相談対応件数は増加傾向です。三重県では、2022年度に2,408件となり、過去最多となっています。

■ 図表85 児童相談所における児童虐待相談対応件数の推移



資料：厚生労働省「福祉行政報告例」